

NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION

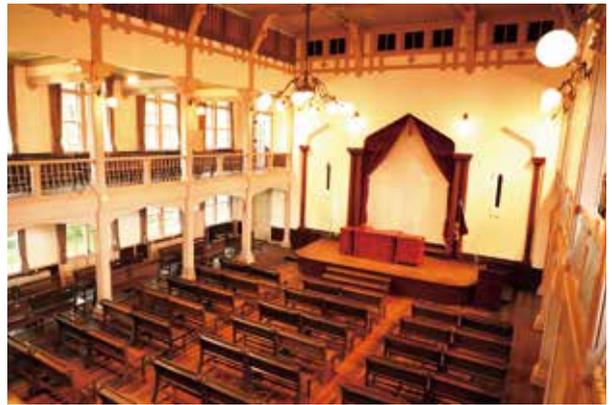
Gunma University

群馬大学概要
2023



Contents

学長からのメッセージ	1
群馬大学の理念及び目標、教育ポリシー	2
概要編	5
資料編	23



桐生キャンパス内の工学部同窓記念会館
(平成10年に国の登録有形文化財として登録)



駆ける未来へ

150年の歴史と共に

— 群馬大学は2023年に、創基150周年を迎えました —

1873年に全国に学校の設置を促す「学制」に対応するため、群馬の地でも教員を養成する「小学校教員伝習所」が設立され、これが群馬大学の始まりで、2023年に150周年を迎えました。

創基150周年記念事業のシンボルとして教職員、学生、卒業生などから募集し、キャッチコピーとロゴマークを決定しました。キャッチコピーには、150年の歴史を背負ってこれからの未来を創っていけるような学校になってほしいという思いを込めています。ロゴマークは、万年筆の筆先を「教育・学問」、筆先から繋がっている線と山を「地域との繋がり」として地域に根差した大学であることをイメージし、緑豊かなキャンパスを想起させる緑を基調とし、双葉の色で「4つの学部」と「学部・国籍の垣根を超えた多様性」を4色のグラデーションで表現しています。



群馬県師範学校（大正初期）



桐生高等染織学校（大正初期）



1949年 医学部附属病院外来本館



1948年 医学部基礎本館



群馬大学長 石崎 泰樹

Ishizaki Yasuki

群馬大学は、今年創基150周年を迎えました。これからも、知の拠点として地域の人材育成や地域社会を支える基盤となると同時に、グローバルな視点で活躍できる大学を目指します。

私たちは国際社会の一員として、2030年までにSDGs（持続可能な開発目標）を達成することが求められています。SDGsは2015年に国連サミットで採択された共通目標であり、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」などの17の目標と169のターゲットから成立しています。これらの目標を達成するため、群馬大学はSDGsの実現に向けた学問の探求及び教育研究の諸活動を通じて、豊かな人間性と高い専門能力を持った人材の養成を推進しています。

SDGsの16番目の目標に「平和と公正をすべての人に」があります。しかし2022年2月24日、ロシアがウクライナに軍事侵攻を開始しました。これに対して群馬大学は3月7日に、言葉が大きな力となり、平和が回復し、無辜の人々が傷つくことが無い日が一日も早く来ることを願って、ロシアのウクライナ侵攻に強い抗議の言葉を発しました。さらに4月に入り、在日ウクライナ大使館と連携してウクライナから大学生、研究者を受け入れること、ポーランドに避難しているウクライナの大学生を支援するためにポーランド・ワルシャワ大学へ教育支援することを決定し、これまでに4名の大学生・1名の研究員を受け入れ、彼らが将来ウクライナの教育・文化・社会の復興及び世界平和に貢献してくれることを期待して、支援を継続しています。群馬大学は今後も「平和と公正をすべての人に」提供すべく努めてまいります。

少子高齢化が急激に進んでいる日本において、群馬大学はどう対応していくべきでしょうか？ひとつは主としてアジア地域から優秀な学生をリクルートし、高度人材として日本に定着し地域の活性化に貢献してもらうことです。この目的のために、グローバル・ハタラクラスぐんま（GHKG）プロジェクトを実施しています。他方で欧米諸国に比べて社会人学生の入学が停滞している現状を鑑み、社会人が入学しやすい環境を整備していかなければならないと考えています。社会人一人一人の価値が高まれば地域の活性化、延いては国力の維持・向上につながります。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけに、リモートワークやリモート授業などの新しい生活様式が私たちの生活に定着しつつあります。一方で、日本のIT化が国際社会の中で立ち後れていることが顕在化しています。大量の情報が発信され活用される、サイバー空間と現実空間が融合した超スマート社会Society 5.0がまさに到来しようとしています。群馬大学はSociety 5.0で活躍する人材を育成しなければなりません。科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能な社会では、AIやIoT、ビッグデータの活用などが重要なキーワードとなります。しかし、情報の質の評価や人権の尊重に関する倫理的課題など、解決すべき多くの問題が残されています。さらにChat GPTなどの生成AIの出現は、社会を大きく変えていくことが予想されます。生成AIをどう活用すべきかを真摯に考え、大学教育を変革していかなければなりません。

群馬大学は2021年4月1日に情報学部を新設し、理工学部の改組も実施しました。情報学部を核として、来るべき社会で必須となるICTリテラシーを全ての学生に提供し、全ての領域の学生・研究者の研究活動をデータサイエンスで支援します。また、数理データ科学教育研究センターを中核とした数理及びデータサイエンス教育の展開・普及や、食健康科学教育研究センターにおける共同研究及び社会人向け教育の拡充など、学部を越えた連携による取組みを実施しており、デジタル分野を牽引する高度専門人材の育成の強化、分野横断的な高度専門知識・能力を持つ高度専門職業人の強化を図るべく新たな大学院構築に取り組んでいます。

1949年に制定された徽章は群馬大学が上毛三山に囲まれていることを表しています。上毛三山の中で荒牧キャンパスに最も近い赤城山は広い裾野を持っています。群馬大学も赤城山のように、広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、さまざまなレベルの知の峰を作り、世の中に発信していきたいと思っています。

群馬大学のビジョンである「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」の実現に向け、皆様の意見を広く取り入れ、地方創生に貢献すると共に「知と人材」のグローバルな集積拠点として、一層魅力ある大学になるよう、改革を進めてまいります。

歴代学長

代数	氏名	在任期間	代数	氏名	在任期間
初代	西成甫	昭和24. 5. 31～昭和36. 6. 20	第7代	前川正	昭和60. 12. 16～平成3. 12. 15
(事務取扱)	相葉伸	〃 36. 6. 21～〃 36. 7. 13	第8代	石川英一	平成3. 12. 16～〃 9. 12. 15
第2代	長谷川秀治	〃 36. 7. 14～〃 42. 7. 13	第9代	赤岩英夫	〃 9. 12. 16～〃 15. 12. 15
(事務取扱)	柴田勝博	〃 42. 7. 14～〃 42. 8. 31	第10代	鈴木守	〃 15. 12. 16～〃 16. 3. 31
第3代	秋月康夫	〃 42. 9. 1～〃 46. 8. 31	(国立大学法人 群馬大学学長)	鈴木守	〃 16. 4. 1～〃 21. 3. 31
(事務取扱)	町田周郎	〃 46. 9. 1～〃 46. 12. 15	第11代	高田邦昭	〃 21. 4. 1～〃 27. 3. 31
第4代	石原恵三	〃 46. 12. 16～〃 50. 12. 15	第12代	平塚浩士	〃 27. 4. 1～令和3. 3. 31
第5代	畑敏雄	〃 50. 12. 16～〃 56. 12. 15	第13代	石崎泰樹	令和3. 4. 1～現在
第6代	小野周	〃 56. 12. 16～〃 60. 12. 15			

前 文

群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新製の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。

二十世紀後半は、科学技術の飛躍的発展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中にあって、本学は、教育学、社会情報学、医学、工学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に応じてきた。

ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。

基本理念

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

ビジョン

「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」

目 標

1. 教育の目標

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理観と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

2. 研究の目標

- (1) 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。
- (2) 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

3. 社会貢献等の目標*

- (1) 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- (2) 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたるとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- (3) 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

※社会貢献等の「等」は国際交流を含みます。

4. 大学運営の目標

- (1) 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持って効率的な大学運営に当たる。
- (2) 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

群馬大学の教育ポリシー

学 部

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<卒業認定・学位授与の条件>

1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的学識、技能

1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

幅広い教養、学際性

2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

論理的思考力、コミュニケーション力

3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

社会人としての自覚、国際性

4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育課程編成と教育方法>

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程（カリキュラム）は以下の方針で編成されています。

1. カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度（成績）評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2. 学士課程教育においては、全学共通の教養科目及び専門科目を、互いの融合を図りながら編成する。
3. 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4. 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。

5. 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。

- (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
- (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
- (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

成績評価基準に基づいて行います。

入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

<入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
2. 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

<入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多様な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般選抜（前期・後期）の他に、特別選抜として総合型選抜、学校推薦型選抜、帰国生選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入学共通テスト、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に可否を判定します。

大 学 院

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

幅広く豊かな学識に立脚し、専門分野において創造性豊かに自立して研究活動を実践でき、高度な専門性・国際性を必要とする職業を担うための能力を身に付け、研究者・技術者・高度専門職業人としての倫理観を身に付けている人物で、各研究科・学府が課程又は専攻ごとに定めた修了要件を満たした者に、学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

国際的に活躍できる、創造的能力を備えた研究者及び実践力を有する高度専門職業人を養成するため、専門分野における基礎的素養を涵養し高度な専門的知識及び能力を修得させるよう、各研究科・学府の課程又は専攻の教育目標の達成に向けた体系的な教育課程を編成し、実施します。

入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

各研究科・学府が課程又は専攻ごとに求める学力・能力を持ち、研究や実践によって、人類社会の発展に貢献する意欲のある人を受け入れます。

概要編

Contents

概要編

学部	6 – 7
大学院・専攻科	8 – 10
附属施設	11
共同教育学部附属学校園、医学部附属病院	11
教育・研究関連施設等	12 – 18
生体調節研究所、総合情報メディアセンター	12
大学教育・学生支援機構	13
研究・産学連携推進機構	14
重粒子線医学推進機構	15
未来先端研究機構、食健康科学教育研究センター	16
数理データ科学教育研究センター、多職種連携教育研究研修センター、 共同利用設備統括センター	17
ダイバーシティ推進センター、共同研究拠点・教育関係拠点	18
国際交流	19 – 20
地域・社会との連携	21 – 22

共同教育学部 (荒牧地区)



HP

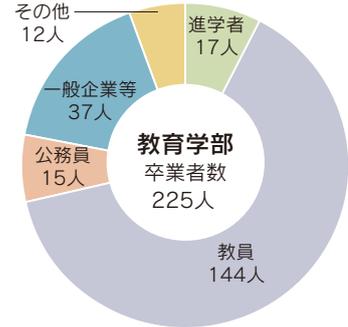
共同教育学部は、2020年に宇都宮大学と共同で設置した全国初の教育学部であり、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的としている。学校教育をめぐる多様な課題について柔軟かつ効果的に取り組むことのできる、高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を身に付けた実践的指導力のある教育者の養成を目指している。



宇都宮大学との遠隔授業

課程	系	専攻	講座
学校教育教員養成課程	人文社会	国語、社会、英語	国語教育、社会科教育、英語教育
	自然科学	数学、理科、技術	数学教育、理科教育、技術教育
	芸術・生活・健康	音楽、美術、家政、保健体育	音楽教育、美術教育、家政教育、保健体育
	教育人間科学	教育、教育心理、特別支援教育	学校教育、特別支援教育

学部卒業者の進路状況



情報学部 (荒牧地区)



HP

情報学部は、情報を軸とした文理横断型の教育を目指し、社会情報学部と理工学部電子情報理工学科情報科学コースを融合して2021年に新設した学部で、科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能社会の実現において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、Society5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成する。

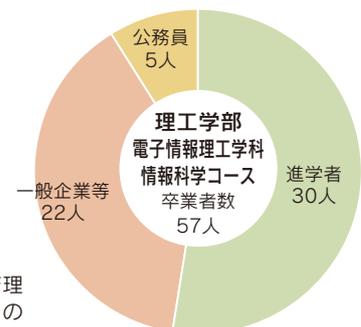
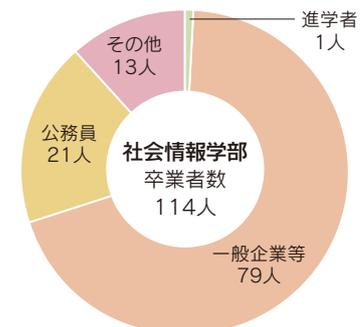


授業風景

(※2021年4月設置)

学 科	プログラム
情報学科	人文情報プログラム
	社会共創プログラム
	データサイエンスプログラム
	計算機科学プログラム

学部卒業者の進路状況※



※情報学部の前身である社会情報学部及び理工学部電子情報理工学科情報科学コースの2022年度の実績

医学部 (昭和地区)



医学科は、医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、科学的知 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の3つの面 (SES) にわたって生涯自己研鑽を続けることができる人材の育成を目的としている。この目的を達成するために、SESを掲げたアウトカム基盤型教育を推進し、「生涯自己研鑽を続けることができる、優れた医師、医学研究者、医療行政官、医学教育者」の養成に努め、医学・医療と地域社会に貢献することを目指している。

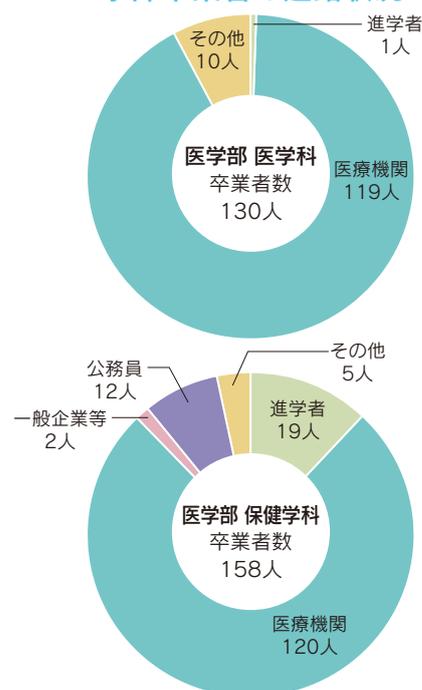
保健学科では、「高度化・専門化する保健医療の担い手となる、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士及び作業療法士の育成」、「医療技術の学問体系の確立と発展に寄与しうる専門職の育成」、「チーム医療においてリーダーシップを発揮できる人材の育成」、「国際社会で活躍できる専門職の育成」の4つの理念・目的を達成するため、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開している。

課 程		講 座 等
医学科		基礎医学教育部門、臨床医学教育部門、医学教育政策・支援部門
保健学科	看護学専攻	看護学講座
	検査技術科学専攻	検査技術科学講座
	理学療法学専攻	理学療法学講座
	作業療法学専攻	作業療法学講座



実習風景

学部卒業者の進路状況



理工学部 (桐生地区・太田地区)



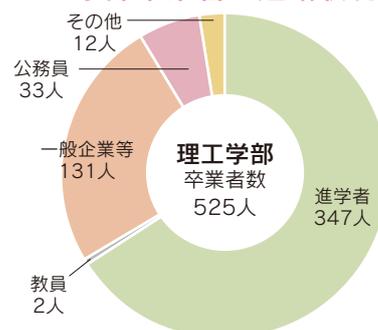
理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育を行い、個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育むとともに、国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成することを目的としている。



授業風景

類	プログラム
物質・環境類	応用化学プログラム
	食品工学プログラム
	材料科学プログラム
	化学システム工学プログラム
	土木環境プログラム
電子・機械類	機械プログラム
	知能制御プログラム
	電子情報通信プログラム

学部卒業者の進路状況



教育学研究科 (荒牧地区)



HP

教育学研究科には、修業年限が2年の専門職学位課程（教職大学院）を設置しており、学部段階での教育を基礎にして、学校現場で実践的指導力を発揮できる（身につけた）教員を養成することを目的としている。

教職大学院の特徴としては、学部新卒者は附属学校など連携校で、現職教員は勤務校で、教科等の授業実践、カリキュラム開発や、校内研修、業務改善など学校運営にかかわる自身の実践を素材とした「課題研究」がある。

専門職学位課程

専攻	コース
教育実践高度化専攻	教職リーダーコース
	授業実践開発コース
	特別支援教育実践開発コース



授業風景



授業風景



授業風景

社会情報学研究科 (荒牧地区)



HP

社会情報学の深化と発展を図り、社会的・時代的な要請を受けて活躍することのできる「高度専門職業人」及び「実践的研究者」を養成することを目的としている。

メディア社会構想コースでは、メディアへの着目を基礎に、望ましい新たな社会のあり方を構想できる人材を養成する。社会情報システムデザインコースでは、社会実験・シミュレーションやデータ解析の結果に基づいて、社会システムをデザインできる人材を育成する。

修士課程

専攻	コース
社会情報学専攻	メディア社会構想コース
	社会情報システムデザインコース



修士論文発表会

医学系研究科 (昭和地区)



HP

科学的知 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) を探求し、それらの動的な融合から世界の医科学をリードする教育・研究・医療拠点を構築することを目標としている。先端的生命科学研究をさらに推進させ、疾病の病因究明と体系的治療戦略を実践する医学研究者を育成する。また高い倫理観と卓越した臨床研究能力を持つ医療人を育成するとともに研究成果の社会還元を促進していく。



授業風景

修士課程

専攻	
修士課程	生命医科学専攻

博士課程

専攻	領域	講座
博士課程 医科学専攻	基礎・基盤医学	機能形態学、生体構造学、分子細胞生物学、生化学、応用生理学、脳神経再生医学、薬理学、遺伝発達行動学、細菌学、生体防御学、公衆衛生学、法医学、医学哲学・倫理学、医学教育開発学
	臨床医学	【内科学講座】 循環器内科学、呼吸器・アレルギー内科学、消化器・肝臓内科学、内分泌代謝内科学、腎臓・リウマチ内科学、血液内科学、脳神経内科学、腫瘍内科学 【総合外科学講座】 循環器外科学、呼吸器外科学、消化管外科学、乳腺・内分泌外科学、肝胆膵外科学、小児外科学 腫瘍放射線学、放射線診断核医学、神経精神医学、麻酔神経科学、救急医学、総合医療学、リハビリテーション医学、臨床検査医学、病態病理学、病理診断学、小児科学、産科婦人科学、泌尿器科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚科学、形成外科学、整形外科科学、臨床薬理学、口腔顎顔面外科学、医療の質・安全学
		【協力・連携講座】 ●医学部附属病院 臨床試験学、情報医療学 ●生体調節研究所 細胞構造、代謝エビジェネティクス、生体膜機能、個体代謝生理学、遺伝生化学、分子糖代謝制御、代謝疾患医科学、粘膜エコシステム制御、ゲノム科学リソース、代謝シグナル解析 ●重粒子線医学研究センター 重粒子線医学物理・生物学、重粒子線臨床医学 ●食健康科学教育研究センター 食健康科学 ●数理データ科学教育研究センター 数理データ科学 ●量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所 生体機能解析学

保健学研究科 (昭和地区)



HP

保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質 (QOL) 向上のための独創的あるいは学際的な研究を進め、幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につける。

博士課程

専攻	ユニット又は領域
博士前期課程 (修士)	保健学専攻
博士後期課程 (博士)	
	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
	看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域

理工学府 (桐生地区・太田地区)

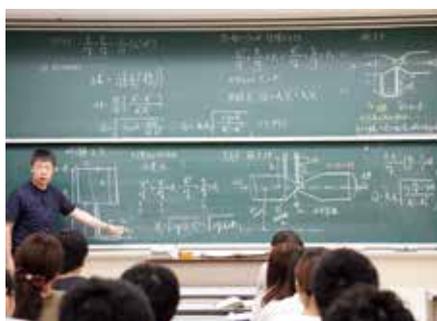


HP

現在大学が社会から求められている、多様化・複層化が進化する産業活動における諸課題に対して俯瞰的なものの見方と、総合的实践力独創力を発揮し、社会からのニーズに応えることのできる高度理工系専門人材を育成することを目的としている。

課程	専攻	プログラム又は領域
博士前期課程 (修士)	理工学専攻	物質・生命理工学教育プログラム 知能機械創製理工学教育プログラム 環境創生理工学教育プログラム 電子情報・数理教育プログラム
博士後期課程 (博士)	理工学専攻	物質・生命理工学領域 知能機械創製理工学領域 環境創生理工学領域 電子情報・数理領域

大学院・専攻科



授業風景



授業風景



授業風景

特別支援教育特別専攻科 (荒牧地区)



HP

本特別専攻科は学士の学位を修得し幼・小・中・高の教員免許を取得した者（取得見込みを含む）を対象として、特別支援教育に関する高度な専門性の修得と特別支援学校教諭免許状の取得を目的とする、修業年限1年の課程である。

専攻	コース
重複障害教育専攻	一種免許状取得コース



授業風景

共同教育学部附属学校園 (若宮・上沖地区)



HP

幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し、地域の教育の充実・発展に寄与すること及び、共同教育学部学生の教育実習を実施することを目的としており、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校を設置している。



活動風景 (附属幼稚園)



実験風景 (附属小学校)



実験風景 (附属中学校)



作業学習 (附属特別支援学校)

医学部附属病院 (昭和地区)



HP

診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保険医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。

附属病院

診療科	中央診療施設	診療支援部門				
内科診療センター 循環器内科、 呼吸器・アレルギー内科、 消化器・肝臓内科、 内分泌糖尿病内科、 腎臓・リウマチ内科、血液内科、 脳神経内科	検査部 手術部 放射線部 輸血部 集中治療部 病理部 周産母子センター 光学医療診療部 リハビリテーション部 感染制御部 腫瘍センター 重粒子線医学センター 救命救急センター 遺伝子診療部 がんゲノム医療センター	材料部 システム統合センター 診療情報管理部 栄養管理部 患者支援センター 肝疾患センター 認知症疾患医療センター 地域医療研究・教育センター 保険診療管理センター 臨床工学部	薬剤部	看護部	医療の質・安全管理部	先端医療開発センター
外科診療センター 循環器外科、呼吸器外科、 消化管外科、 乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、 小児外科						
泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、整形外科、 皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科神経科、 麻酔・集中治療科、脳神経外科、小児科、 産科婦人科、放射線治療科、放射線診断核医学科、 形成外科、救急科、総合診療科						



医学部附属病院



トリアージ訓練の様子



医療安全週間ポスター掲示

生体調節研究所 (昭和地区)



HP

生体調節研究所は1963年に設置された旧内分泌研究所から1994年の改組を経て誕生した国内唯一の「内分泌・代謝学」に関する基礎医学研究所であり、半世紀以上もの間、一貫して我が国における当該分野を先導する国際的研究拠点として活動してきた。この間、内分泌・代謝システムの研究を中心に、細胞レベルから動物個体に至るまで多様な研究材料を用いて生体の恒常性を司る分子機構の解明を目指すとともに、その破綻により引き起こされる疾患、特に糖尿病、脂質異常症、肥満症、がんなどといった近年社会問題化している生活習慣病に焦点をあてた研究を推進している。

(関連：P18)

研究部門

(2023年8月1日現在)

研究部門	分野
生体情報部門	細胞構造、代謝エピジェネティクス、生体膜機能、個体代謝生理学
病態制御部門	分子糖代謝制御、代謝疾患医学、粘膜エコシステム制御、内分泌・代謝システム制御

附属研究施設

附属研究施設	分野
生体情報ゲノムリソースセンター	ゲノム科学リソース、疾患ゲノム研究
代謝シグナル研究展開センター	代謝シグナル解析、トランスレーショナルリサーチ
拠点研究支援センター	—



生体調節研究所



研究活動の様子

総合情報メディアセンター



HP

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした学術情報の収集と情報発信並びにIT基盤の整備・運用を行っている。図書館部門は、資料の整備・提供に加えて、学生のための「学びの場」としてラーニングcommonsを設置するとともに、地域の「学びの場」として学外者へのサービスにも力を入れている。情報基盤部門は、CIO（情報化統括責任者）のもと情報化を進めるとともに、情報セキュリティインシデントへの対応を迅速かつ一元的に行うことを目的として全学の危機管理室に設置された「群馬大学CSIRT」と緊密に連携し、情報セキュリティの確保を担っている。また、2022年に本センターに設置された群馬大学出版会は、本学又は本学の教職員が作成した教材著作物の利用許諾等、著作権の管理に関する事務を行っている。

図書館部門

図書館部門は、中央図書館（荒牧地区）、医学図書館（昭和地区）及び理工学図書館（桐生地区）の3館が連携・協力しながら、図書の提供・保存のほか、電子的資料に対応するため、リポジトリの構築、電子ジャーナルや各種データベースの整備を行っている。

各館に整備したラーニングcommonsにおいて講演会や展示会を定期的開催するとともに、地域交流のため中央図書館内のギャラリー利用を学外者にも開放している。

蔵書数 (2023年5月1日現在) (単位：冊)

区分	中央図書館	医学図書館	理工学図書館	計
和書	273,598	70,450	77,996	422,044
洋書	55,552	58,797	66,047	180,396
計	329,150	129,247	144,043	602,440



中央図書館（荒牧地区）

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は、全学の組織である群馬大学CSIRTと連携し、セキュリティが確保され安心して使いながら使いやすいIT環境の実現に努めている。

荒牧地区、昭和地区、桐生地区に職員を配置し、電子メールなどのITサービスの提供、学内LANの管理運用、授業や演習等に利用される教育用端末の整備とともに、利用者へのサポートを行っている。

事務情報部門は、GUNetを利用して事務情報ネットワークを整備し、情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進している。

■全学ソフトウェアライセンス (ソフトウェアの無償配布)

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減並びにソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結している。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でWindowsやOfficeの最新バージョンを利用することができる。

■群馬大学学術情報ネットワーク (GUNet)

教育研究に不可欠な情報ネットワーク環境として、全学的な認証ネットワークを提供している。認証ネットワークでは、学生・教職員に発行される全学認証アカウントを使って認証することにより、簡単かつ安全にネットワークを利用することができる。

※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供している。サービスの詳細については、ホームページを参照。

大学教育・学生支援機構

大学教育・学生支援機構は、学生に対する教育、支援などを適正かつ円滑に行うことを目的としており、次の6つのセンター等から構成されています。

大学教育・学生支援機構



目的
学生の教育、支援等の適正 かつ円滑な実施

- 業務内容**
1. 大学教育（大学院教育を含む）の企画、運営、改善及び評価
 2. グローバル化推進（研究に特化した業務を除く。）
 3. 学生支援
 4. 入学者選抜、高大連携及び学生募集広報
 5. 学生及び教職員の健康の保持増進
 6. 教育、支援等に係る情報公表
 7. 各学部等との連絡調整

大学教育センター

目的
全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

- 業務内容**
1. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
 2. 大学教育の運営及び評価

グローバルイニシアチブセンター

目的
教育活動のグローバル化を推進すること

- 業務内容**
1. 外国語教育
 2. グローバル人材育成
 3. 学生の海外派遣及び外国人留学生受入に係る支援

学生支援センター

目的
学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

- 業務内容**
1. 学生生活の支援
 2. 学生相談の企画、立案及び実施
 3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施
 4. 障害学生の修学支援

アドミッションセンター

目的
入学者選抜方法の企画及び立案、入学者選抜実施の総括、入学者選抜の改善に係る分析及び調査、入学者選抜に係る情報の適正な管理並びに高大連携及び学生募集広報の推進を図ること

- 業務内容**
1. 入学者選抜方法の企画、立案及び改善に関すること。
 2. 入学者選抜（大学入学共通テストを含む。）実施に係る総括に関すること。
 3. 入学者選抜の結果の分析及び評価に関すること。
 4. 入学者選抜に係る調査及び研究に関すること。
 5. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示に関すること。
 6. 入学者選抜に係るリスクマネジメントに関すること。
 7. 高大連携活動の企画、立案及び実施に関すること。
 8. 学生募集広報活動の企画、立案及び実施に関すること。

健康支援総合センター

目的
学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること

- 業務内容**
1. 健康診断の企画、立案及び実施
 2. 健康診断に係る指導助言
 3. 身体的及び精神的（カウンセリングを含む）な健康相談
 4. 応急措置
 5. 健康に係る調査及び研究
 6. 感染症の予防及び環境衛生に係る指導助言

教育改革推進室

目的 大学教育全体の改革を推進していくこと

- 業務内容**
1. 教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案
 2. 地域と連携した教育に関する企画立案
 3. 社会ニーズを踏まえた教育プログラムの企画立案
 4. アクティブラーニングに関する企画立案

研究・産学連携推進機構



HP

研究・産学連携推進機構は、研究・産学連携戦略本部、高度研究推進・支援部門、高度人材育成部門、産学連携・知的財産部門、次世代モビリティ社会実装研究センターから組織されており、大学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理・運用等を円滑に行い、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。

研究・産学連携戦略本部

◇研究URA室

- (1)研究活動等の調査・分析
- (2)科学技術・学術政策等の動向把握等
- (3)競争的研究費等に係る情報収集・分析及び申請支援
- (4)プロジェクト研究推進の支援 (5)産学官連携推進の支援

◇産学連携ワンストップサービスオフィス

- (1)外部機関等からの相談窓口及び運営
- (2)外部機関等からの産学連携に係る依頼事項等の調整
- (3)外部機関等との技術移転活動の調整及び成果の検証
- (4)機構の産学連携組織間における産学連携活動の進捗等の情報共有

高度研究推進・支援部門

◇高度研究戦略室

- (1)研究戦略の策定 (2)先端研究の推進 (3)プロジェクト型研究の推進
- (4)競争的研究資金獲得のための企画立案
- (5)プロジェクトに係る研究設備マスタープランの策定

◇機器分析センター

- (1)機器の管理運用 (2)利用者に対する講習及び技術指導
- (3)分析、測定及び解析 (4)分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供
- (5)外部依頼分析、技術相談
- (6)共同利用に係る研究設備マスタープランの策定

高度人材育成部門

◇高度人材育成センター

- (1)ポストドクター（PD）及び博士課程学生の実践的能力の開発
- (2)PDのインターンシップの実施
- (3)PD及び博士課程学生と企業等との交流及び連携
- (4)教職員のキャリアパスに係る意識啓発
- (5)PD及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築
- (6)創業者及び創業支援人材の育成

◇研究支援人材育成コンソーシアム室

- (1)コンソーシアムの事務局
- (2)コンソーシアム事業の実施

産学連携・知的財産部門

◇産学連携・知的財産活用センター

- (1)民間機関等との共同研究及び受託研究
- (2)知的財産の創出、取得、管理及び技術移転 (3)知的財産情報の発信
- (4)大学発ベンチャー企業の創出及び支援
- (5)首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援
- (6)地域社会における学術研究の交流

◇リスクマネジメント室

- (1)利益相反に係る適切な管理
- (2)外国為替及び外国貿易法に基づく輸出管理に係る適切な管理
- (3)学内外の関係する機関等との連絡調整
- (4)教職員等に対する啓発活動

次世代モビリティ社会実装研究センター

次世代の移動手段を研究し、社会実験を通して新しい交通システムの実証と社会への普及を目指すため、2016年12月に「次世代モビリティ社会実装研究センター（通称：CRANTS）」を設置し、2018年4月には荒牧キャンパスに新たな研究拠点を整備した。次世代モビリティに関する多分野にわたる関連企業と80件に及ぶ共同・受託研究契約を締結するとともに、全国60か所以上での自動運転実証実験を展開しており、さらに自治体や関連企業と連携したMaaS（地方版の新たな移動サービス）×自動運転といった新しい研究領域の展開を図っている。



HP



センターと自動運転車両



管制・遠隔運転室



公道を走行中の実証車両

重粒子線医学推進機構



HP

重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

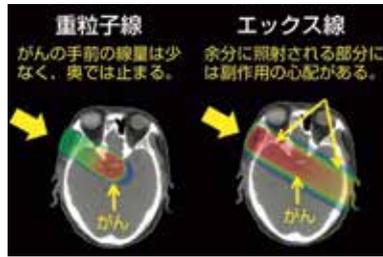
重粒子線医学研究センター

重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

また、附属病院重粒子線医学センターと協力しながら重粒子線治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を中心としたがん診療の実践により、地域社会に貢献する役割も担っている。



重粒子線医学センター(重粒子線照射施設)



線量分布の比較(重粒子線とエックス線)

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学研究センター

物理学部門
生物学部門
医学部門

協力部門
先端粒子線医学共同研究講座 (日立製作所)

大学院医学系研究科

協力講座
重粒子線医学物理・生物学分野
重粒子線臨床医学分野

医学部附属病院

中央診療施設
重粒子線医学センター

教育・研究関連施設等



治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射される。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られる。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速される。



線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行う。

本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子(炭素イオン)を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持つ。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された装置であり、国際的な注目を集めている。

未来先端研究機構



HP

未来先端研究機構は、群馬大学の強みである統合腫瘍学（新規抗がん剤開発・オミックス解析によるがんの治療開発等）、内分泌代謝・シグナル学（細胞内代謝等）、元素科学（炭素・ケイ素・フッ素の元素特性を活用したエネルギー開発）などの研究分野において世界水準の研究力を強化することを目的として、2014年4月に先端的な研究組織として設置された。

また、グローバルレベルの研究展開を図るため、世界トップクラスの海外研究機関から研究者を招へいし、海外ラボラトリーを設置して国際共同研究を実施している。国内外の研究者・研究機関との連携を進めるとともに、グローバルに活躍できる優秀な若手研究人材を育成し、群馬大学の教育研究機能強化のコアとしての役割を担っている。



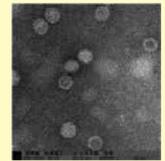
海外ラボラトリーの研究の様子

ウイルスベクター開発研究センター

2019年10月に、世界最先端のベクターツール開発と供給を行う研究拠点の構築を目指し、機構内に設置された。難病の遺伝子治療等を可能とするベクターツールの開発研究を進め、年間100件を超えるウイルスベクターの国内外への提供を通して、研究・開発拠点としての実績を上げている。



研究活動の様子



食健康科学教育研究センター



HP

食健康科学教育研究センターは、「食と健康」に関わる研究の推進及び専門人材の育成により、大学の教育研究及び社会貢献活動等の向上に資するとともに、地方公共団体及び地方産業界等と連携して、地域産業の振興及び社会における健康増進に寄与することを目的として2017年12月に設置された。

本学は、医学系研究科、保健学研究科における食の安全安心に係る分析機能、生体調節研究所における生活習慣病の予防開発機能、理工学府における食品開発・先端加工・製造技術の教育研究機能、さらに共同教育学部や情報学部における食育、健康志向、ブランディングの教育研究機能等を有している。本センターが中心となり、これらの機能を活用して文理の広い分野における食と健康に係る教育研究及び地域貢献を行う。

ユニット	業務内容
健康科学ユニット	食の安全安心に係る支援技術の開発に関すること。
食品開発ユニット	食を通じた生活習慣病の予防・治療法開発に関すること。
食品機能解析ユニット	食品の先端加工・製造技術の開発に関すること。
食マネジメントユニット	食品の新規機能性探索及び開発によるブランディング支援に関すること。
就労女性コホート研究ユニット	食を通じ、女性のライフステージに応じた健康管理及び女性活躍社会への地域活性化への貢献に関すること。



国際シンポジウム講演の様子

教育・研究関連施設等

■ 数理データ科学教育研究センター



HP

数理データ科学教育研究センターは、情報数理及びデータサイエンスに関する教育、人材育成、及び研究の推進を目的とし、2017年に設置された。

文部科学省が制定した数理・データサイエンス・AI教育（MDASH）プログラム認定制度に則した教育プログラムを2020年度より全学的に実施し、2021年度にリテラシーレベル、また2022年度にリテラシープラスに認定されている。分野横断型である本プログラムはバックグラウンドが異なる全学生が受講し身につけるべき素養となるため、各自が理解度に合わせ繰り返し学べるデジタル教材の活用が重要となる。こうしたオンライン教育法を積極的に取り入れながらも、学生との双方向性を担保し、高い学習効果を得るための授業の雛形づくりを本センターが担っている。



数理・データサイエンス教育に関するFDの様子

情報数理ユニット

データ科学ユニット

レギュラトリーサイエンスユニット

全学必修教養科目「データ・サイエンス」
(MDASHリテラシー及びリテラシープラス認定済)

■ 多職種連携教育研究研修センター



HP

多職種連携教育研究研修センターは、多職種連携によるチーム医療実践のための教育課程の研究、国際的保健・医療人材の養成、国際的医療教育機関ネットワークの構築等を目的として設置された。

当施設は、日本で唯一の多職種連携教育に特化した世界保健機関（WHO）協力センターとして、2013年7月にWHOより指定された。国際・地域社会に的確に対応したチーム医療が実践できる保健・医療人材の養成を推進するため、WHOと連携して、教育者及び保健医療関係者に対する研修コースや多職種連携教育ワークショップを提供している。



IPEトレーニングコース（前橋、群馬）



IPE Training Course 2023 in Thailand（バンコク、タイ）

■ 共同利用設備統括センター



機器分析センター



共同利用機器部門



ゲノムリソースセンター

学内外の研究設備の共同利用の促進や高度な分析機器を活用できる人材育成等を通じ、学内外の教育研究及び技術開発の発展に寄与することを目的とし、機器分析センター、理工学府産学連携推進部門、医学系研究科共同利用機器部門、生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンターで構成している。

機器分析センターでは、近隣の大学等と「りょうもうアライアンス」体制を構築し、地域の産学連携を支援する他、学部生を対象とした機器分析の専門人材育成「マイスター育成プログラム」に取り組んでいる。また、共同利用機器部門においては、学内外の依頼分析を積極的に進めており、研究基盤であるコアファシリティの強化を図っている。



マイスター育成プログラムの様子



質量分析等の実験室

ダイバーシティ推進センター



HP

ダイバーシティ推進センターは、男女共同参画はもとより、ジェンダー、障がい、国籍、性的指向・性自認、宗教、年齢、価値観などの多様性を尊重する環境を整備し、ダイバーシティ社会の実現に貢献することを目的として、2020年4月に設置された。本学は、性の多様性に係る基本的考えや対応ガイドラインを策定しており、学生や教職員がジェンダーアイデンティティにかかわらず安心して学び、働ける環境整備に力を入れている。

●研究者のワーク・ライフ・バランス支援

子育てや介護、傷病などのライフイベントにより研究時間の確保が難しい研究者には、研究支援者を配置する「研究活動支援」を行い、仕事と生活の両立を支援している。

●女性の活躍推進

性別に関わりなく、男女の教職員が活躍できる環境を整備している。特に、研究者の中でも女性研究者は22%（2023年5月現在）と少ないため、女性研究者を増やし活躍できるようにポジティブアクション（積極的是正措置）を実施している。女性研究者が共同研究のリーダーとなる場合は、審査を経て「共同研究促進事業」として研究助成を行い、女性研究者のキャリアアップを支援している。

●男性教職員の育児休業取得促進

2022年に育児休業に係る法改正があり、通称「産後パパ育休」が導入された。育児はカップルがシェアするもの。育児休業中は、パートナーの負担が軽減するほか、生後間もない子どもの成長を見守るかけがえのない時間となることから、男性も希望どおり育児休業が取得できるように意識啓発をしている。



総括シンポジウムポスター



性の多様性講座

共同研究拠点・教育関係拠点

本学では「研究」に関する共同利用・共同研究拠点として生体調節研究所が2010年度から認定を受けており、2023年度に「教育」に関する共同利用拠点として文部科学大臣から新たに認定された。

内分泌・代謝学共同研究拠点（生体調節研究所）

生体調節研究所は国内唯一の「内分泌・代謝学」に関する基礎医学研究所であり、生活習慣病やその他内分泌・代謝関連疾患に関する豊富な研究リソース、エピゲノム編集・オルガノイド・多様なモデル生物など独自の先端技術を保有している。2010年からは共同利用・共同研究拠点に認定され、これら研究基盤を国内外の研究者・企業・地域と共有し幅広い研究交流を行っている。それにより内分泌・代謝学分野を牽引する国際イノベーションハブとなることを目指している。



医療安全教育手法に基づく多職種人材育成共同利用拠点(多職種人材育成のための医療安全教育センター（予定）)

本拠点は、医療の質・安全学講座、医学教育開発学講座、大学院保健学研究科が連携して、チームワーク、リーダーシップ、システム思考、質改善といった医療安全の視点を取り入れた国際標準の医療安全教育手法に基づき、全国の多職種の人材育成に関わる教員へFD（ファカルティ・ディベロップメント）を行う教育関係共同利用拠点で、リスクが複雑化する現代における高いニーズを踏まえ、医療分野以外への展開も図っていく予定である。



全医療職の養成機関のハブとなる教育関係共同利用拠点

- 1) 医療安全教育手法の国際的な知見を収集・統合
- 2) 医療安全教育コンテンツの開発と共有
- 3) 医療安全教育手法の開発と共有
- 4) 多職種の医療安全教育のネットワーク形成

グローバル化推進

グローバルイニシアチブセンター

グローバルイニシアチブセンターは、大学における教育のグローバル推進及び国際交流の支援を包括的に行うことを目的として、それまでの大学教育センター・外国語教育部会、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムおよび国際センターを統合した形で、2023年4月に設置された。全学にわたる英語教育企画・運営、国際教育プログラム企画・運営、外国人留学生及び海外留学の支援、日本語教育プログラムの実施、海外の大学等との協定締結など、群馬大学のグローバル人材育成に寄与する多様な取組みを展開している。

●外国語教育

共通教育科目としての初年次英語科目では、アクティブラーニングの一つの手法であるPBL（Project-based-learning）を手法として、学内で制作した問題解決型教材を、英語を媒体として全学統一シラバスで行っている。「インプット中心のスキル別英語教育」から「アウトプットを目的とした統合型英語教育」を実施し、積極的に身の回りや社会の問題解決に取り組む姿勢を備えたグローバル人材育成の基盤を作っている。



学内制作教科書



授業の様子：グループディスカッション



ポスターセッション

●GFL（Global Frontier Leaders）プログラム

卓越したグローバル人材を育てることを目的とした全学的プログラムである。本プログラムに参加するためには、GFL特別推薦入試を受験するか、入学後に応募・選考を経る方法がある。GFL生は、特別に企画・設定されたプログラム（セミナー、特別プログラム、特別講演会、自主的活動、海外留学など）に参加し、プログラムを修了することで、卒業時、オープンバッジが授与され、GFLプログラム修了が証明される。



グローバル 交流セミナー・ サマーセミナー

外国人留学生や大学院生による講演会や各種ガイダンスを行います！



外国人教員による 特別プログラム

グループワークやプレゼンテーションを主とした実践的な英語講義に取り組んでいます。



特別講演会

行政・企業等のトップリーダーや先端研究に携わる研究者を学生自ら招聘し講演会を企画開催します！



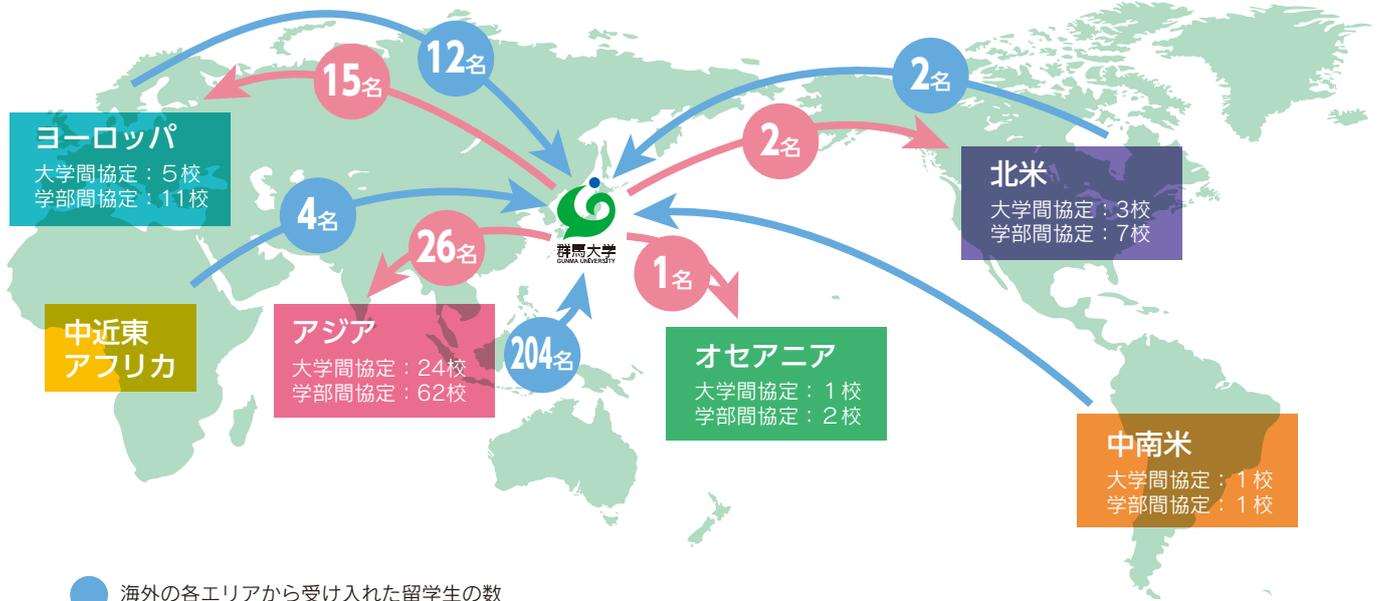
海外留学

GFL企画の留学プログラムも用意しています！GFL生は自分で選択して、学内外の留学プログラムや海外研修に参加しています。

●国際交流

大学全体のグローバル化推進を目的として、世界各国・地域の大学等機関と大学間あるいは学部間の国際交流協定を締結し、学生の海外交流を推進している。
(以下2023年5月現在)

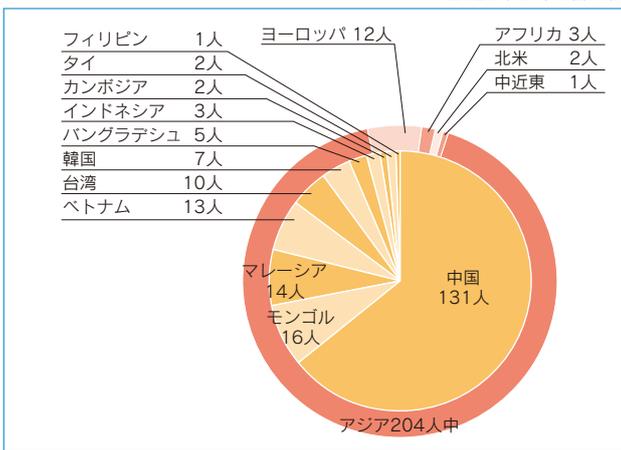
●協定校情報 27カ国1地域117大学等と提携



- 海外の各エリアから受け入れた留学生の数
- 海外の各エリアの協定校等に留学・研修した群大生の数

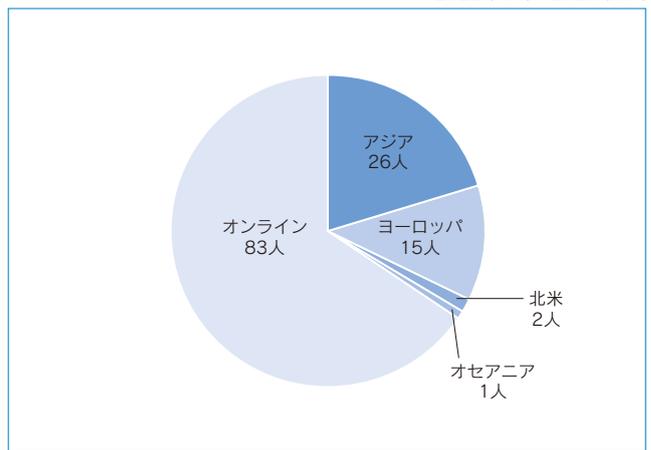
●地域別外国人留学生数

2023年5月1日現在



●地域別海外への学生派遣人数

2022年4月～2023年3月



■ 地域の企業等との連携によるキャリア開発

学生たちのキャリアビジョンを拓く取組を推進することを目的として、地域の企業等の協力のもと、理工学部と情報学部で取り組んでいるPBL（課題解決型学習：Problem/Project Based Learning）、全学で取り組んでいる「グローバル・ハタラクラスぐんま（GHKG）」プロジェクトなどのキャリア教育やインターシップを実施している。これらの取組は、2023年度に導入された三省合意インターンシップの全類型（【タイプ1～4】）に対応している。

● PBL（Problem/Project Based Learning）【タイプ2】

企業で働くことのマナー、企業の現状・課題などを座学やグループ学習により把握する。企業をはじめ実際の職場の見学や社員との交流、就業体験を行える機会を設け、すべての学生が実社会の活動における課題について自主的に把握できるようにする。

【理工学部のPBL】

2年次に「課題発見セミナー」を実施し、企業見学・就業体験などを通じて課題を抽出。その後4年次の「課題解決セミナー」にてグループワークを実施し、社会で求められる実践的課題解決能力を養う。

【情報学部のPBL】

3年次に実施。人文・社会と自然科学の諸学を通じて全体を統括できるような「融合型」の視点を養うとともに、実社会の課題に対してデータサイエンスの知識を用いて解決策を提案する能力を養う。



● 「グローバル・ハタラクラスぐんま（GHKG）」プロジェクト【タイプ1～4】

「卒業後も群馬で暮らし働く」キャリアビジョンを学生たちが積極的に描けるよう、地元企業・自治体との連携のもと、「キャリア教育」「コミュニケーション教育」「中長期インターンシップ」を一体として提供する（年間250時間）。学部・研究科、国籍・地域、学年の壁を越えて参加が可能。外国人留学生の地域定着率が、5年間で1割から6割になるなど、顕著な成果が生まれており、令和3年度には、全国初となる文部科学省認定「留学生就職促進教育プログラム」の選定を受けた。



「GHKGキャリア教育」「GHKGコミュニケーション教育」では、企業や自治体関係者とともに、外国人集住地域を訪問し、課題を発掘するフィールドワークも実施。

【取組事例1】

（写真左）GHKG【地域対応型】インターンシップ in 沼田市
課題は「中国成都の展示即売会に参加する、市内3事業者の商品PR動画を作成せよ」。企画・フィールドワーク・動画構成、編集等、事業者や市職員と意見交換しながら学生たちが創り上げた。映像には、事業者の匠の技、商品に込めた思いが表現された。中国の文化や生活のなかで、それぞれの商品がもつ魅力を、学生たちが「文化の翻訳」をして引き出し、母語でのナレーションにも取り組んだ。（写真：沼田市提供）

【取組事例2】

（写真右）GHKG【地域対応型】インターンシップ in JICA
課題は「フィールドワークを通して群馬県内の多文化共生・共創の地域づくりと外国人材の活躍の可能性を探れ！」。技能実習生を受け入れている企業や開発途上国への技術支援を展開する企業等を訪問し、共生・共創のあり方を検討した。



地域・社会との連携

教育や研究とともに社会貢献活動、特に地域貢献活動に力を入れている。コミュニティーの一員として、地域と共に歩む大学を目指して、各種公開講座や“群馬ちびっこ大学”などのイベント、また各教員や学部が実施するシンポジウムなどを通じて、県民の皆様、小中高校生や大学生、教員、教育委員会や市町村などの自治体の皆様などを対象に、幅広い地域貢献活動を展開。これにより地域の皆様のニーズに応じて、本学の教育・研究活動の成果を社会に還元し、地域を発展させるため努力している。

●こども体験教室「群馬ちびっこ大学」



HP

専門的な学問をわかりやすく、とりわけ小学生にも理解できるように、また興味がわくように行っているのが「群馬ちびっこ大学」。子どもたちは、実体験を通じた学習機会が少なくなってきた。そこで体験的な学習を通じて、学問の面白さ、奥深さを実感することで、将来の日本や世界を担う人材の若い芽を育むことを目的として実施している。2021年度からオンデマンド配信を開始。



ちびっこ大学 栄養素を検査しよう！

●公開講座・開放講座



HP

本学がもつ教育・研究の成果を知識と技として広く社会に開放し、地域社会における教育文化の向上に資することを目的に、1988年度から実施。また、2004年度に国立大学が法人化されてからも、引き続き実施している。本年度も共同教育学部、情報学部、医学部及び理工学部の教員等が講師となり、多くの講座を開講し、オンライン講座でどこからでも受講することができる。

(詳細：p41)



2022年度開放講座Bコース
手話で学ぶ初めての将棋



2022年度高校生サイエンスインストラクター
育成プログラム



2022年度社会起業家特論

●地域貢献事業

活動内容は、人材育成、地域課題、住民サービス、医療・保健・福祉、産学官連携、文化交流、小中学生に対する理科体験教室など、多方面にわたっている。学長のリーダーシップのもと、地域連携推進室を中核として、学内外の各組織や教員個人などと連携し、事業を実施している。

(詳細：p42、43)



障がいのある子ども達のスポーツ体験プロジェクト



学生保健サポーターによる
地域ボランティア体制の構築



救急救命士向けの
病院前周産期救急対応講習の策定および開催

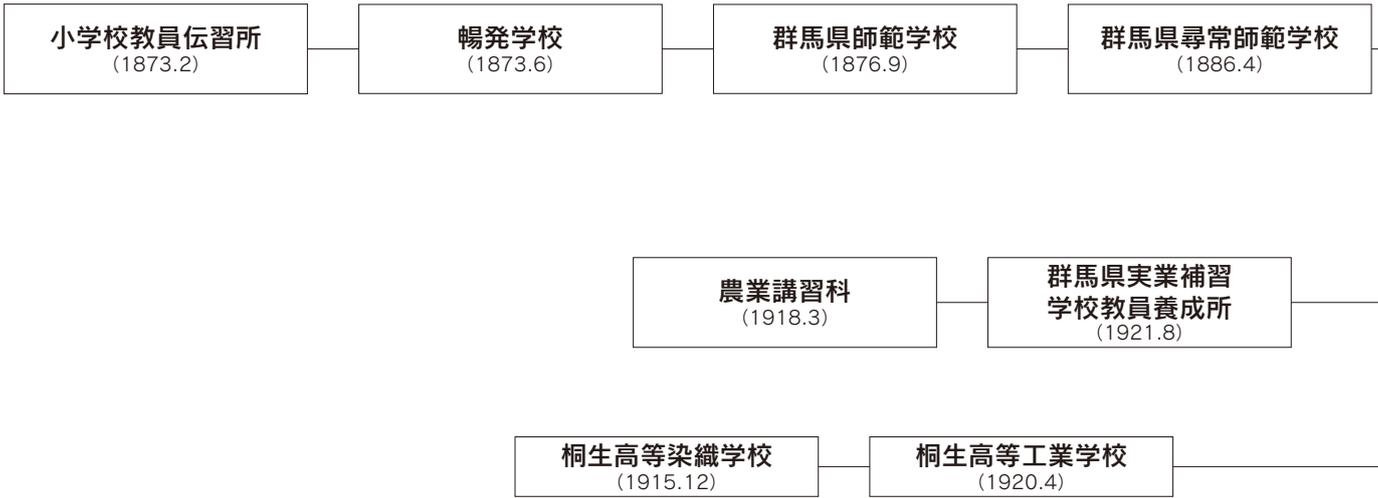
資料編

Contents

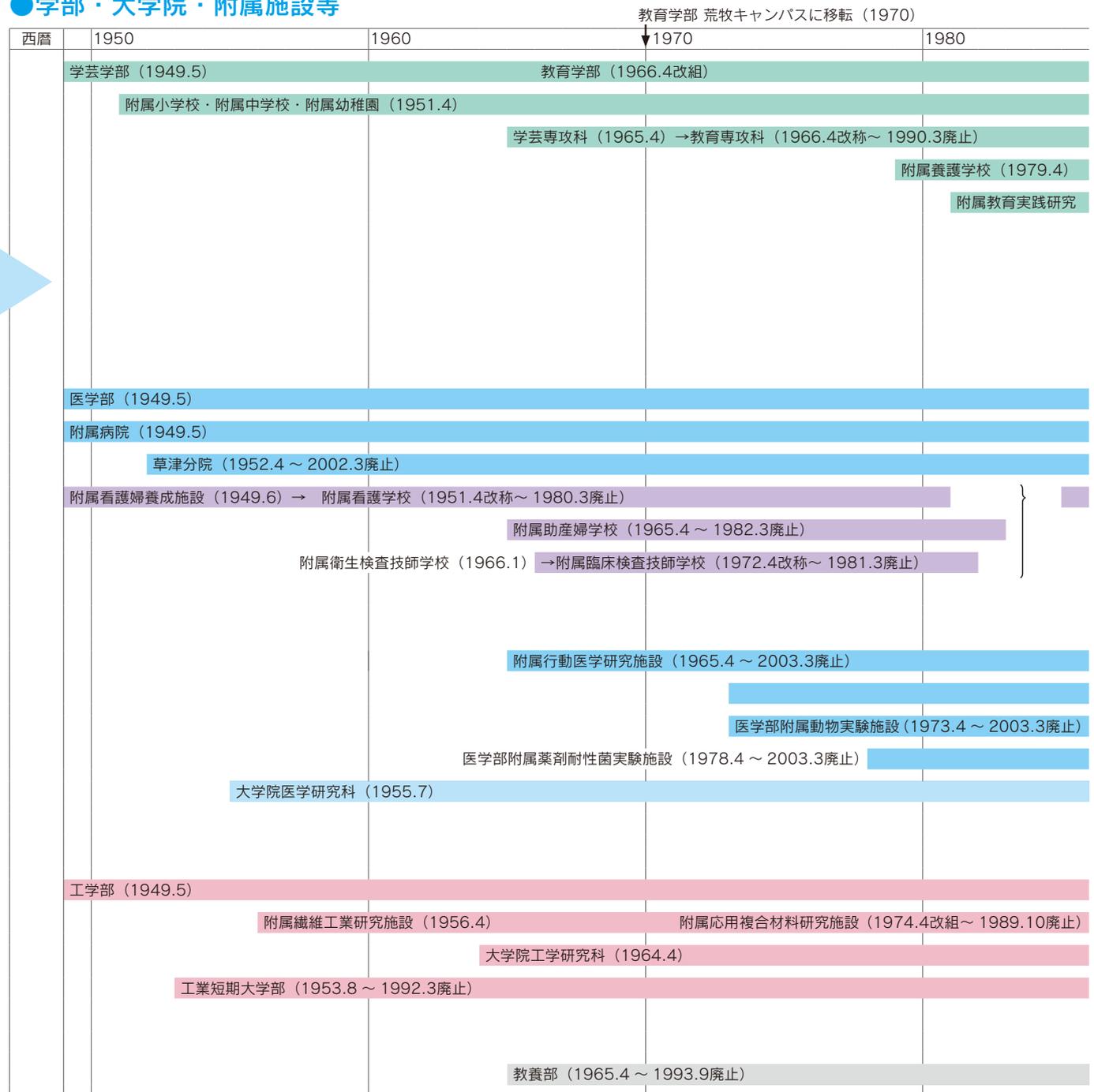
資料編

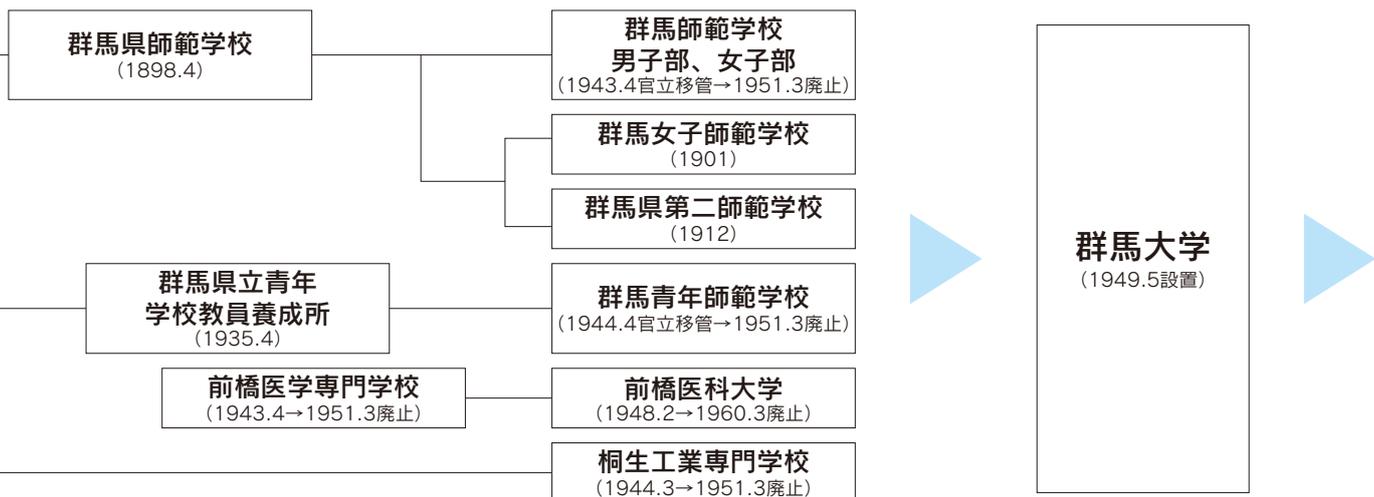
沿革	24 – 27
管理運営組織、学長の補佐体制、事務組織	28
教育・研究組織	29
役員及び主な役職者等	30 – 31
学生の数	32 – 33
文部科学省認定プログラム	33
入学志願状況等、学部入学者の出身地区別内訳	34
卒業・修了者数・学位授与者数	35
卒業後の状況	36
国際交流	37 – 39
附属施設	40
公開講座、開放講座、オンデマンド講座	41
地域貢献事業一覧	42 – 43
収入・支出予算額、研究費等獲得・受入状況	44 – 45
主な競争的研究費	45
土地・建物面積、学部等所在地分布図	46
学部等所在地	47
建物配置図（荒牧地区、昭和地区）	48
建物配置図（桐生地区、太田地区）	49
交通アクセス（荒牧、昭和、若宮、上沖地区）	50
交通アクセス（桐生、太田地区）	51
刊行物、学年暦	52

沿革



学部・大学院・附属施設等



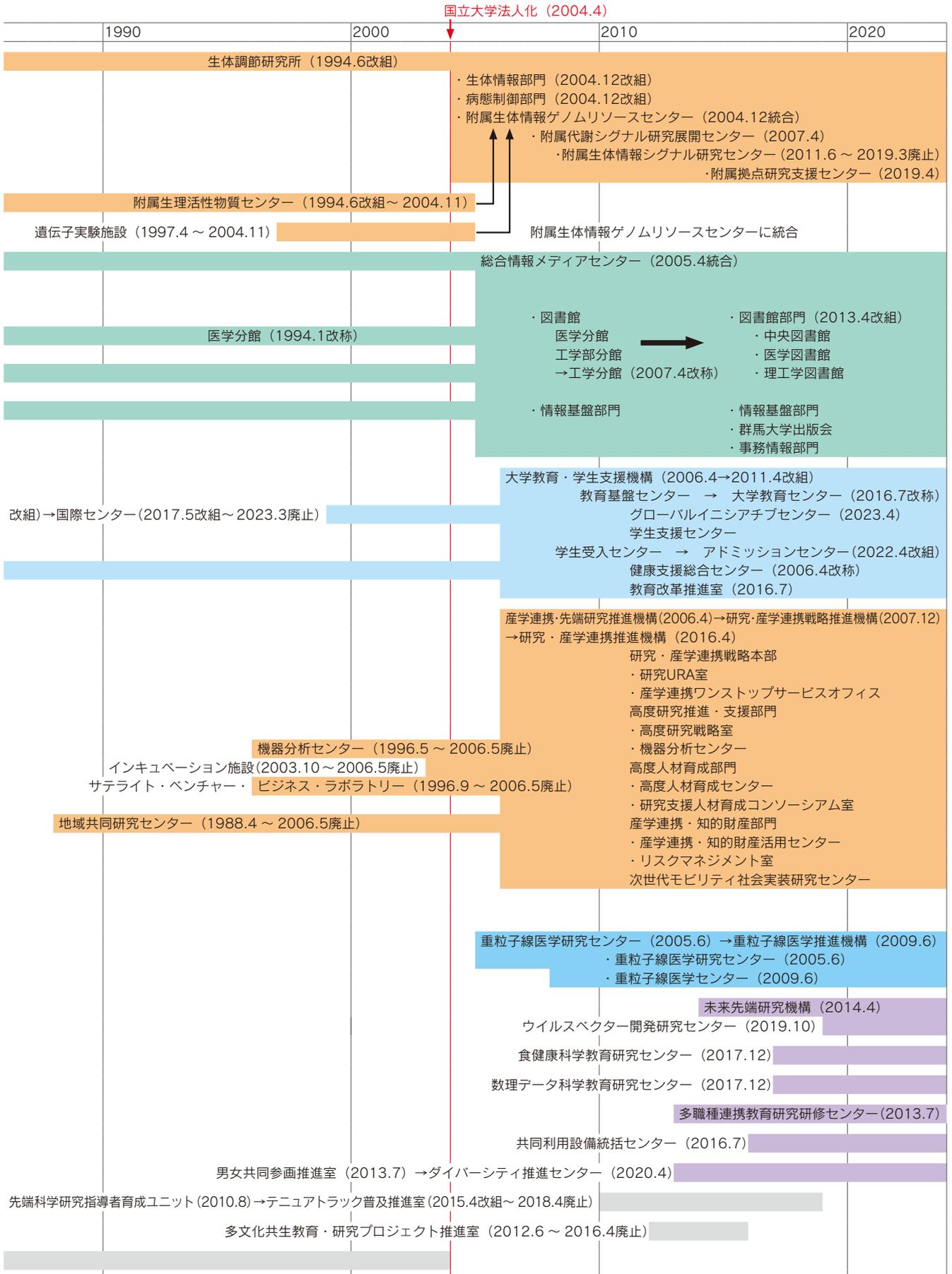


1990	2000	2010	2020
			共同教育学部 (2020.4改組)
	特殊教育特別専攻科 (1994.4)	特別支援教育特別専攻科 (2007.4改称)	
		附属特別支援学校 (2007.4改称)	
指導センター (1981.4)	附属学校教育臨床総合センター (2001.4改組)	附属教育実践センター (2020.4改組)	
大学院教育学研究科 (1990.4)		教職大学院 (2008.4)	
	大学院社会情報学研究科 (1998.4)		
	社会情報学部 (1993.10)		
	附属社会情報学研究センター (2008.10)	→附属社会情報学教育・研究センター (2016.4改組)	
		情報学部 (2021.4)	
	医療技術短期大学部 (1977.10 ~ 2000.3廃止)		
	医学部保健学科 (1996.10)		
		大学院保健学研究科 (2011.4)	
		附属保健学研究・教育センター (2011.4)	
		附属高度保健学人材開発センター (2022.7)	
	医学部附属リハビリテーション医学研究施設 (1973.4 ~ 1999.3廃止)		
		医学系研究科附属動物実験施設 (2003.4) →附属生物資源センター (2014.4改称)	
		医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設 (2003.4)	
		大学院医学系研究科 (2001.4改称)	
		附属教育研究支援センター (2009.9)	
		附属医学教育センター (2010.8)	
			理工学部 (2013.4改組)
			大学院理工学府 (2013.4改組)
		大学院工学研究科理工学研究院 (2013.4改組 ~ 2014.3廃止)	
	ケイ素化学国際教育研究センター (2008.3)	→附属ケイ素科学国際教育研究センター (2013.4)	
		→附属元素科学国際教育研究センター (2015.4)	

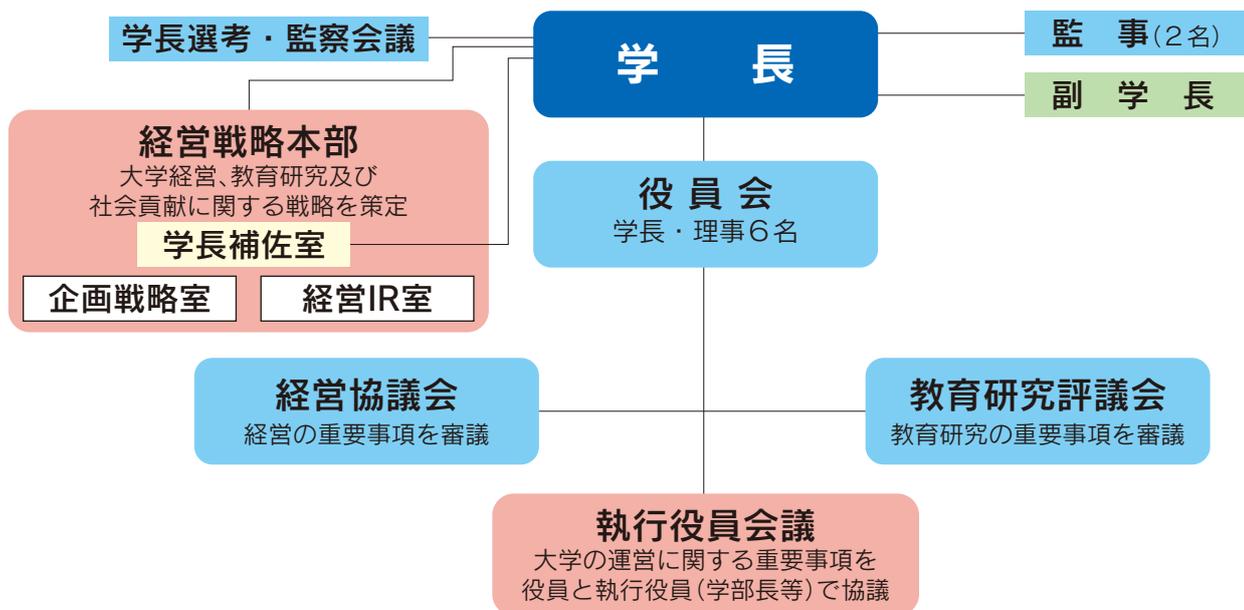
資料編

●機構・学内施設等

西暦	1950	1960	1970	1980
	医学部附属内分泌研究施設（1951.4～1963.3廃止）→内分泌研究所（1963.4）			
			附属ホルモン測定センター（1972.5）	
	附属図書館（1949.5）			
	学芸学部分館→教育学部分館（1966.4改称）		↑ 1967.4統合	
	医学部分館			
	工学部分館			
			情報処理センター（1984.12）→総合情報処理センター（1999.4）	
			留学生センター（1999.4）→国際教育・研究センター（2008.12）	
		保健管理センター（1977.4）（2006.3廃止）		
		特殊廃液処理施設（1976.7～2004.3廃止）		



管理運営組織

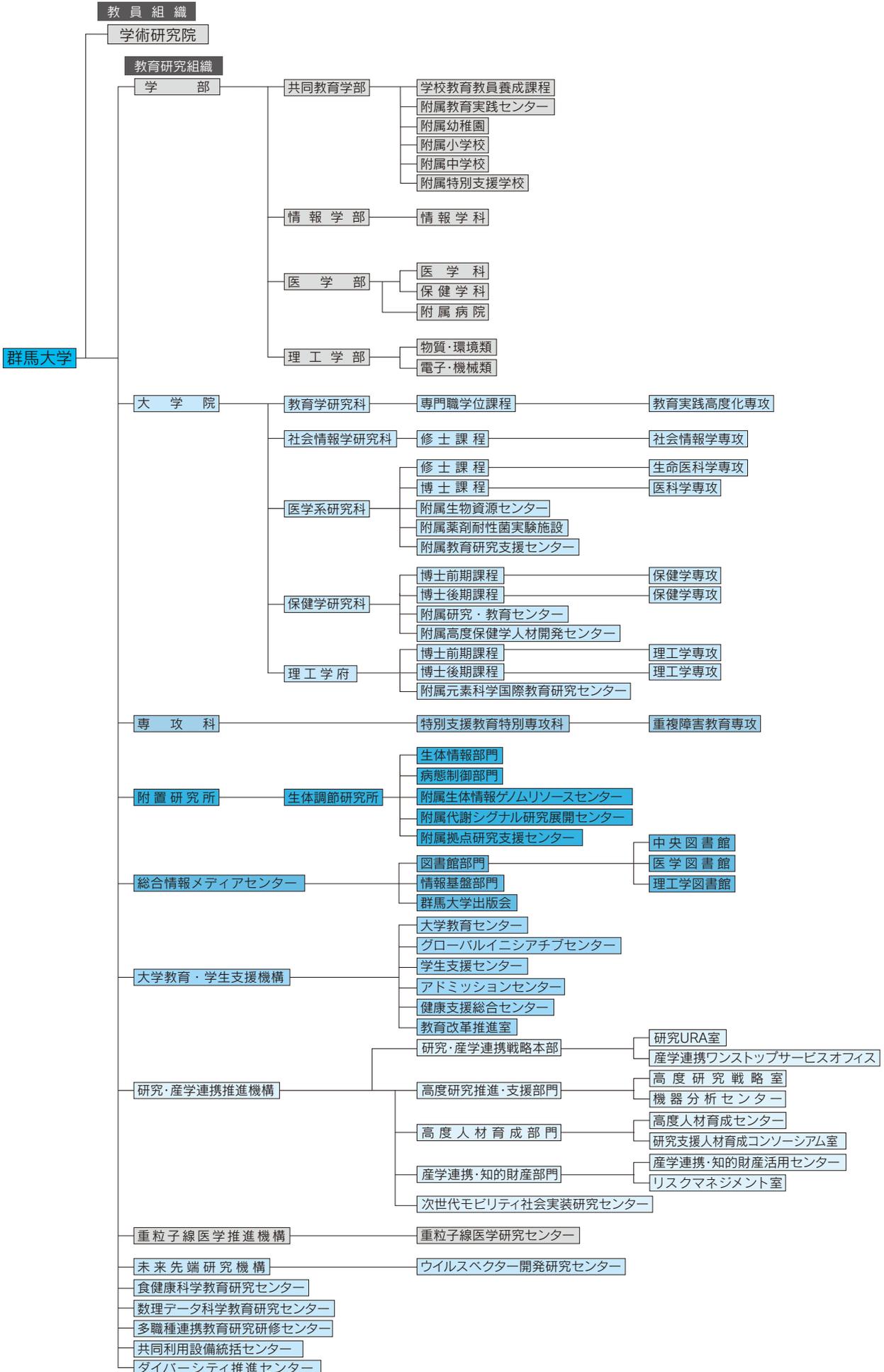


学長の補佐体制



事務組織





役員・執行役員・副学長・学長特別補佐・顧問

2023年5月1日現在

役員	
学長	石崎 泰樹
理事（教育・評価担当）	林 邦彦
理事（研究・企画担当）	花屋 実
理事（総務・財務担当）	小坂 慎治
理事（病院担当）	齋藤 繁
理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）	五十嵐 優子
理事（学長特命（産学連携）・非常勤）	近藤 潤
監事	岡野 弘文
監事（非常勤）	丸山 和貴

執行役員	
学長	石崎 泰樹
理事（教育・評価担当）	林 邦彦
理事（研究・企画担当）	花屋 実
理事（総務・財務担当）	小坂 慎治
理事（病院担当）	齋藤 繁
理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）	五十嵐 優子
理事（学長特命（産学連携）・非常勤）	近藤 潤
共同教育学部長	藤森 健太郎
情報学部長・社会情報学部長	高山 利弘
医学系研究科長・医学部長	小湊 慶彦
保健学研究科長	齋藤 貴之
理工学府長・理工学部長	石間 経章
生体調節研究所長	佐藤 健
総合情報メディアセンター長	西村 淑子

副学長	
教育・評価担当	林 邦彦
研究・企画担当	花屋 実
総務・財務担当	小坂 慎治
アドミッション担当	板橋 英之
グローバルイニシアチブ担当	飯島 睦美
ダイバーシティ担当	小和瀬 桂子
教養教育担当	渡辺 秀司

学長特別補佐	
数理データ科学教育研究センター長	青木 悠樹
食健康科学教育研究センター長	粕谷 健一
大学の機能強化（グローバル化、ブランディング）	越智 貴子
大学の機能強化（レギュラトリーサイエンス推進）	大西 浩史
大学の機能強化（教学マネジメント）	栗原 淳一
大学の機能強化（ビッグデータ活用）	片山 佳代子
大学の機能強化（コアファシリティ、大学院改革）	南嶋 洋司
大学の機能強化（社会課題解決型研究支援）	弓仲 康史
大学の機能強化（創発的研究支援）	井上 裕介

顧問	
元群馬大学長（第10代）	鈴木 守
元群馬大学長（第11代）	高田 邦昭
前群馬大学長（第12代）	平塚 浩士

学長選考・監察会議・経営協議会・教育研究評議会

学長選考・監察会議			
経営協議会	内山 充	株式会社上毛新聞社取締役会長	
経営協議会	冲永 寛子	学校法人帝京平成大学学長	
経営協議会	曾我 孝之	前橋商工会議所名誉会頭	
経営協議会	吉武 博通	学校法人東京家政学院理事長・筑波大学名誉教授	
評議員	小山 徹也	医学系研究科教授	
評議員	石間 経章	理工学府長	
評議員	藤森 健太郎	共同教育学部長	
評議員	齋藤 貴之	保健学研究科長	

経営協議会			
1. 議長	石崎 泰樹	学長	
2. 学外委員	内山 充	株式会社上毛新聞社取締役会長	
	冲永 寛子	学校法人帝京平成大学学長	
	曾我 孝之	前橋商工会議所名誉会頭	
	津久井 治男	群馬県副知事	
	登坂 正一	太陽誘電株式会社取締役会長	
	深井 彰彦	株式会社群馬銀行代表取締役頭取	
	吉武 博通	学校法人東京家政学院理事長・筑波大学名誉教授	
3. 学内委員	林 邦彦	理事（教育・評価担当）	
	花屋 実	理事（研究・企画担当）	
	小坂 慎治	理事（総務・財務担当）	
	齋藤 繁	理事（病院担当）	

教育研究評議会			
1. 議長	石崎 泰樹	学長	
2. 評議員	林 邦彦	理事（教育・評価担当）	
	花屋 実	理事（研究・企画担当）	
	小坂 慎治	理事（総務・財務担当）	
	齋藤 繁	理事（病院担当）	
	五十嵐 優子	理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）	
	近藤 潤	理事（学長特命（産学連携）・非常勤）	
	藤森 健太郎	共同教育学部長	
	高山 利弘	情報学部長	
	小湊 慶彦	医学系研究科長	
	齋藤 貴之	保健学研究科長	
	石間 経章	理工学府長	
	佐藤 健	生体調節研究所長	
	西村 淑子	総合情報メディアセンター長	
	霜田 浩信	共同教育学部教授	
	関 庸一	情報学部教授	
	小山 徹也	医学系研究科教授	
	大山 良雄	保健学研究科教授	
	花屋 泉	理工学府教授	
	稲垣 毅	生体調節研究所教授	

資料編

学部長等

2023年5月1日現在

共同教育学部				高度人材育成部門長	花 泉 修
学部長	藤 森 健太郎			高度人材育成センター長	本 島 邦 行
事務長	相 田 智 弘			研究支援人材育成コンソーシアム室長	伊 藤 正 実
附属教育実践センター長	栗 原 淳 一			産学連携・知的財産部門長	上 原 宏 樹
附属幼稚園長	永 由 徳 夫 子			産学連携・知的財産活用センター長	藤 縄 祐 祐
附属小学校長	渡 部 孝 永 次 子			リスクマネジメント室長	西 村 淑 子
附属中学校長	上 原 永 次 子			次世代モビリティ社会実装研究センター長	太 田 直 哉
附属特別支援学校長	木 山 慶 子			重粒子線医学推進機構	
情報学部				機構長	花 屋 実 実
学部長	高 山 利 弘			重粒子線医学研究センター長	大 野 達 也
事務長	田 中 正 実			未来先端研究機構	
医学部				機構長	花 屋 実 実
学部長	小 湊 慶 彦			数理データ科学教育研究センター	
大学院医学系研究科				センター長	青 木 悠 樹
研究科長	小 湊 慶 彦			食健康科学教育研究センター	
附属生物資源センター長	松 崎 利 行			センター長	粕 谷 健 一
附属薬剤耐性菌実験施設長	富 田 治 芳			ダイバーシティ推進センター	
大学院保健学研究科				センター長	小和瀬 桂 子
研究科長	齋 藤 貴 之			監査室 法務・コンプライアンス室	
医学部附属病院				監査室長	小 林 泰 治
病院長	齋 藤 繁			法務・コンプライアンス室長	小 林 泰 治
理工学部				事務局	
学部長	石 間 経 章			事務局長・副学長	小 坂 慎 治
事務長	加 藤 幸 生			総務部長	長谷川 靖 彦
大学院理工学府				総務課長	奈 雲 太 伸 一
学府長	石 間 経 章			人事労務課長	坂 本 和 秀 二
生体調節研究所				企画評価課長（兼任）	坂 本 田 耕 武
所長	佐 藤 健 和			財務部長	川 永 二 彦
附属生体情報ゲノムリソースセンター長	平 井 宏 弘			財務課長	福 中 澤 正 道
附属代謝シグナル研究展開センター長	北 村 忠 健			経理課長	中 井 好 英
附属拠点研究支援センター長	佐 藤 健 和			学務部長	笠 崎 正 義
総合情報メディアセンター				教務課長	須 藤 俊 彦
センター長（図書館長）	西 村 淑 子			学生支援課長	中 野 島 美 美
大学教育・学生支援機構				学生受入課長	福 藤 川 保 彦
機構長	林 邦 彦			海外交流課長	大 田 宣 草
副機構長	渡 辺 秀 司			研究推進部長	大 田 宣 草
大学教育センター長	渡 辺 秀 司			研究推進課長	四方田 陸 人
グローバルイニシアチブセンター長	飯 島 睦 美			産学連携推進課長	塚 本 一 文
学生支援センター長	林 邦 彦			総合情報メディアセンター課長	西 博 文
アドミッションセンター長	板 橋 英 之			施設運営部長	外 崎 雅 美
健康支援総合センター長	齋 藤 繁			施設企画課長	荒 井 陽 一
教育改革推進室長	林 邦 彦			施設整備課長	湯 澤 瑞 生
研究・産学連携推進機構				昭 and 施設課長	坂 本 和 秀
機構長	花 屋 実 実			大学戦略担当部長	坂 本 和 秀
副機構長	花 泉 修			昭和地区事務局	
研究URA室長	花 屋 実 実			事務部長	高 橋 明 之
産学連携ワンストップサービスオフィス室長	花 泉 修			総務課長	茂 木 克 彰
高度研究推進・支援部門長	藤 谷 与 士 夫			学務課長	阿 部 昌 浩
高度研究戦略室長	半 谷 禎 彦			経営企画課長	宮 路 昌 浩
機器分析センター長	浅 川 直 紀			管理運営課長	加 藤 ひとみ
				医事課長	岡 本 博 幸

職員の数

2023年5月1日現在

区分	役員	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	養護教諭	事務職員	技術職員等	総計
共同教育学部		31	36	10	1		82	4	19	2	185
大学院教育学研究科		7	3								10
情報学部		22	24	1	6	2			9		64
大学院医学系研究科										12	12
大学院保健学研究科		39	30	21	53					4	147
医学部附属病院		28	15	5	22						70
理工学部		1	9	36	143				2	1,025	1,216
大学院理工学府									29	27	56
生体調節研究所		62	58		33					1	154
総合情報メディアセンター		9	6	2	14					5	36
大学教育・学生支援機構			1	1						4	6
研究・産学連携推進機構		5	8	6						4	23
重粒子線医学推進機構		1	3		1					6	11
未来先端研究機構		3	1	1	15						20
数理データ科学教育研究センター		2	1	1	2						6
食健康科学教育研究センター		2		1							3
ダイバーシティ推進センター		1	2	2	2						7
事務局等	6			1							2
昭和地区事務局									140	23	169
総計	6	214	197	88	292	2	82	4	147	9	156
									346	1,122	2,353

非常勤役員、育休、休職を除く
アドミッションコーディネータ、研究URAは技術職員等として計上

学部

2023年5月1日現在 (人)

学部	学科等	入学定員	収容定員	現 員						
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	総計
教育学部	学校教育教員養成課程	0	0				13			13
共同教育学部	学校教育教員養成課程	190	760	201	201	200	202			804
社会情報学部	社会情報学科	0	120				135			135
情報学部	情報学科	170	520	179	170	190				539
医学部	医学科	108	723	121	147	128	120	114	130	760
	保健学科	160	660	166	165	157	162			650
	計	268	1,383	287	312	285	282	114	130	1,410
理工学部	化学・生物化学科	0	165	1	7	13	183			204
	機械知能システム理工学科	0	110		9	17	109			135
	環境創生理工学科	0	95		2	9	95			106
	電子情報理工学科	0	140	1		28	142			171
	総合理工学科	0	30		1	4	32			37
	物質・環境類	285	865	319	314	256				889
	電子・機械類	185	568	192	197	203				592
	計	470	1,973	513	530	530	561			2,134
合計		1,098	4,756(30)	1,180	1,213	1,205	1,193	114	130	5,035

() は旧理工学部5学科の編入定員で外数

大学院

2023年5月1日現在 (人)

研究科等	専攻・プログラム等	入学定員	収容定員	現 員					
				1年次	2年次	3年次	4年次	総計	
教育学研究科	修士課程	教科教育実践専攻	0	0		1			1
	専門職学位課程	教育実践高度化専攻	20	40	26	21			47
	計		20	40	26	22			48
社会情報学研究科	修士課程	社会情報学専攻	14	28	5	21			26
医学系研究科	修士課程	生命医科学専攻	15	30	8	10			18
	博士課程	医科学専攻	57	228	48	36	34	90	208
	計		72	258	56	46	34	90	226
保健学研究科	博士前期課程	保健学専攻	50	100	50	52			102
	博士後期課程	保健学専攻	10	30	13	11	21		45
	計		60	130	63	63	21		147
理工学府	博士前期課程	理工学専攻	300	600	347	358			705
	博士後期課程	理工学専攻	39	117	17	21	47		85
	計		339	717	364	379	47		790
合計		505	1173	514	531	102	90	1,237	

専攻科

2023年5月1日現在 (人)

研究科等	専攻・プログラム等	入学定員	収容定員	現 員				
				1年次	2年次	3年次	4年次	総計
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	7				7
合計		15	15	7				7

文部科学省認定プログラム

制度	プログラム名称	主たる担当部署等	認定等期間	内容
留学生就職促進教育プログラム認定制度	グローバル・リーダーシップ・プログラム	グローバル・ハタラクラスぐんまプロジェクト推進室	2021年度～2025年度	正規の授業科目「ビジネス日本語」1科目、「キャリア教育」1科目、「インターンシップ」2科目の合計4科目が必修となっている。これらの科目は相互に関連づけられており、留学生は、必要なフォローを受けつつこの関連を意識して学ぶことにより、日本で就職する際の関門であるビジネス日本語と日本企業の文化・慣習などを総合的に理解でき、日本人学生と互角に就活を戦えるようになる。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 リテラシーレベル	データ・サイエンス	大学教育・学生支援機構 数理データ科学教育研究センター	2021年度～2025年度	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定・選定し奨励することを目的とした制度である。このうち「リテラシーレベル」のプログラムでは、これらを適切に理解し活用する基礎的な能力を習得させる。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 リテラシーレベルプラス	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシープラス）	大学教育・学生支援機構 数理データ科学教育研究センター	2022年度～2025年度	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定・選定し奨励することを目的とした制度である。このうち「リテラシーレベルプラス」のプログラムは、リテラシーレベルに加え先導的で独自の工夫・特色を有している。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 応用基礎レベル	群馬大学 応用基礎レベル教育プログラム	大学教育・学生支援機構 数理データ科学教育研究センター	2023年度～2027年度	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定・選定し奨励することを目的とした制度である。このうち「応用基礎レベル」のプログラムでは、課題を解決するための実践的な能力を習得させる。
職業実践力育成プログラム	群馬大学 共同教育学部 日本手話実践力育成プログラム	手話サポーター養成プロジェクト室	2023年度～2025年度	厚生労働省の手話奉仕員・手話通訳者養成カリキュラムの基準を満たした授業を、夜間・休日にリアルタイム双方向のオンライン形態で開講することで、社会人の方々が、手話及び手話通訳のスキルの習得を目指すことを目的とする。 プログラムは2つのコースから構成され、ベーシックコースは、厚生労働省が指定する「手話奉仕員」養成カリキュラム修了相当の単位認定を満たす。アドバンスコースは、厚生労働省が指定する「手話通訳者」養成カリキュラム修了相当の単位認定を満たす。

入学志願状況 (2023年度)

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
共同教育学部	190	290 (2)	347 (5)	637 (7)	3.4	84	117	201
情報学部	170	499 (11)	216 (6)	715 (17)	4.2	125	54	179
医学部医学科	108	268	129	397	3.7	81	27	108
医学部保健学科	160	175 (1)	601	776 (1)	4.9	28	134	162
理工学部	470	934 (33) [1]	325 (9)	1,259 (42) [1]	2.7	352 (3) [1]	128	480 (3) [1]
計	1,098	2,166 (47) [1]	1,618 (20)	3,784 (67) [1]	3.4	670 (3) [1]	460	1,130 (3) [1]

注：() 内の数字は私費外国人留学生入試を表し、外数である。
[] 内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。

2年次編入学 (2023年度)

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	108	114	222	14.8	7	8	15

3年次編入学 (2023年度)

学部等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
情報学部	10	46	21	67	6.7	3	5	8
医学部保健学科	10	1	0	1	0.1	-	-	-
理工学部	23	77 (3)	15	92 (3)	4.0	20 (1)	5	25 (1)
計	43	124 (3)	36	160 (3)	3.7	23 (1)	10	33 (1)

注：() 内の数字は理工学部・ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入学者を表し、外数である。

2023年5月1日現在 (人)
※外国人留学生を除く

学部入学者の出身地区別内訳

北海道	6	関東	872	中部	149	近畿	14	四国	4	九州	17
東北	46	茨城県	33	新潟県	13	三重県	4	徳島県	2	福岡県	6
青森県	11	栃木県	92	富山県	11	滋賀県	1	香川県	-	佐賀県	-
岩手県	13	群馬県	535	石川県	8	京都府	1	愛媛県	2	長崎県	1
宮城県	5	埼玉県	130	福井県	5	大阪府	3	高知県	-	熊本県	2
秋田県	7	千葉県	10	山梨県	11	兵庫県	2	中国	13	大分県	4
山形県	6	東京都	58	長野県	48	奈良県	1	鳥取県	1	宮崎県	3
福島県	4	神奈川県	14	岐阜県	11	和歌山県	2	島根県	1	鹿児島県	1
				静岡県	31			岡山県	4	沖縄	4
				愛知県	11			広島県	3		
								山口県	4	その他	5

2022年度卒業・修了者数

学部	区分	学部	大 学 院									専攻科	合 計
			修士課程			博士課程			専門職学位課程				
			男	女	計	男	女	計	男	女	計		
教育学部		225	0	0	0	0	0	0	13	7	20	5	250
社会情報学部		114	4	7	11	0	0	0	0	0	0	0	125
医学部	医学科	130	2	7	9	31	18	49	0	0	0	0	188
	保健学科	158	15	20	35	6	5	11	0	0	0	0	204
理工学部	昼間コース	502	255	66	321	11	4	15	0	0	0	0	838
	フレックス	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
計		1,152	276	100	376	48	27	75	13	7	20	5	1,628

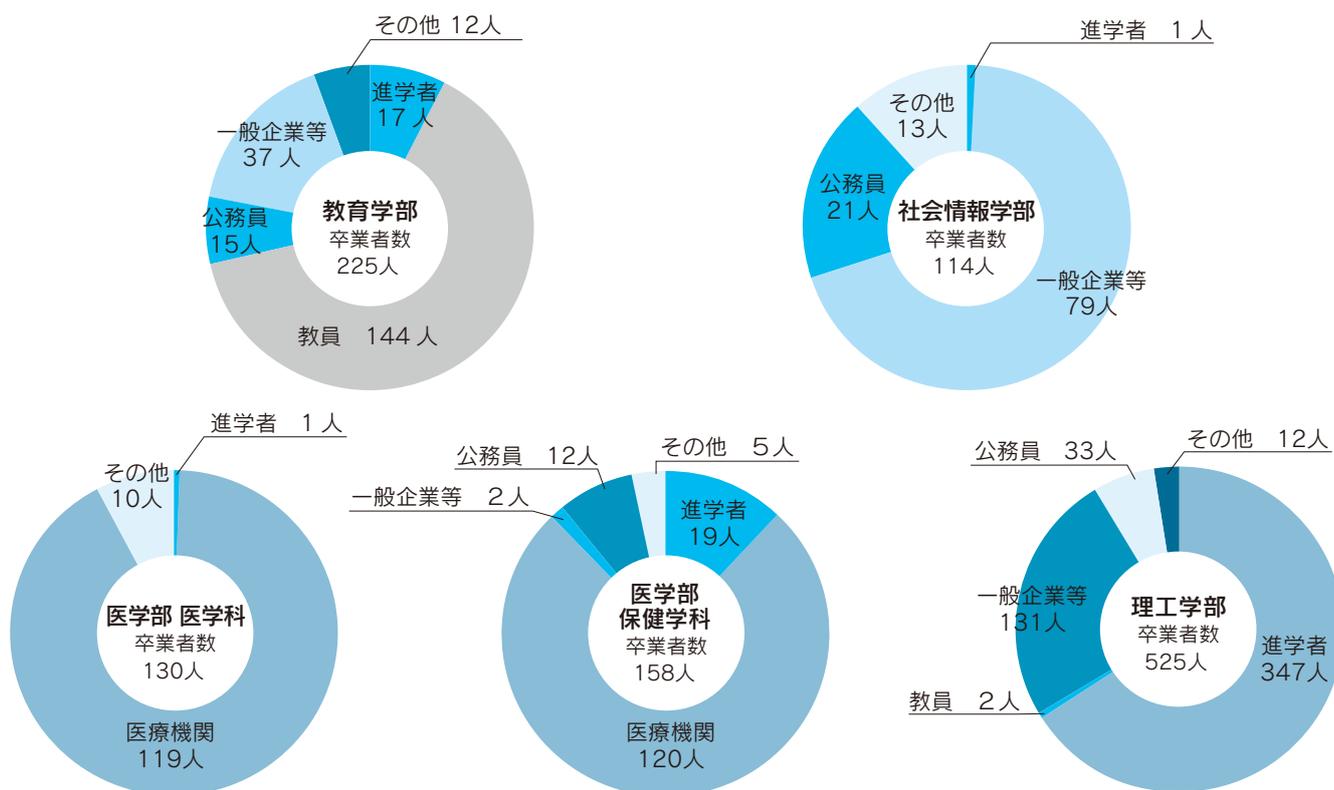
卒業・修了者数 (累計)

学部	区分	学部	大学院			専攻科	臨時教員養成課程	2年課程	合計
			修士	博士	専門職				
教育学部		18,226	1,060		223	458	235	1,419	21,621
社会情報学部		3,086	277						3,363
医学部		10,155	1,140	2,123	0	0	0	0	13,418
	医学科	6,240	151	1,953					8,344
	保健学科	3,915	989	170					5,074
理工学部		3,776	2,830	105					6,711
工学部		27,181	7,367	516		47			35,111
計		62,424	12,674	2,744	223	505	235	1,419	80,224
医療技術短期大学部		2,647				340			2,987
工業短期大学部		4,886							4,886

学位授与者数 (累計)

種類	計
博士 (医学)	3,370
課程修了	1,953
論文提出	1,417
博士 (保健学)	172
課程修了	157
論文提出	15
博士 (看護学)	13
課程修了	13
論文提出	0
博士 (理工学)	138
課程修了	105
論文提出	33
博士 (工学)	643
課程修了	516
論文提出	127
修士 (教育学)	1,060
修士 (社会情報学)	277
修士 (生命医科学)	151
修士 (保健学)	922
修士 (看護学)	67
修士 (理工学)	2,830
修士 (工学)	7,367
教職修士 (専門職)	223

学部卒業者の進路状況（2022年度 ※9月卒業者を含む）



大学院修了者の進路状況（2022年度 ※年度内修了者を含む）

研究科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						その他		
				教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等		計	
教育研究科	修士課程 教科教育実践専攻											
	専門職学位課程 教育実践高度化専攻	20		20							20	
社会情報研究科	修士課程 社会情報学専攻	11		1		5	1				7	4
	博士課程 生命医科学専攻	9	6			2					2	1
医学研究科	博士課程 医科学専攻	49		4	38	3					45	4
	博士前期課程 保健学専攻	35	3	3	23	6					32	
保健研究科	博士後期課程 保健学専攻	11		5	5						10	1
	博士前期課程 理工学専攻	321	12			302	3				305	4
理工学府	博士後期課程 理工学専攻	15		7		7					14	1
	計	471	21	40	66	325	4	0	0		435	15

※該当なし

専攻科修了者の進路状況（2022年度）

専攻科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						その他		
				教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等		計	
特別支援教育特別専攻科		5		5							5	

資料編

「国費」… 文部科学省国費外国人留学生

「私費」… 私費外国人留学生

※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及びJASSOの留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

国・地域別外国人留学生

2023年5月1日現在（人）

区分	学部学生		大学院学生				研究生				科目等履修生		特別聴講学生				特別研究学生		計		合計				
	国費	私費	修士課程	博士課程	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	国費	私費		国費	私費		
地域・国名	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
アジア (10か国 1地域)																									
中国		14		61		39				16											1		131	131	
モンゴル				1		1							1								4	1	15	16	
マレーシア		13		1																		1	13	14	
ベトナム		5				6		2															13	13	
台湾		1				1		2										6					10	10	
韓国		5						1										1					7	7	
バングラデシュ						3		2														2	3	5	
インドネシア						1												2					2	1	3
タイ								1		1													1	1	2
カンボジア		2																					2		2
フィリピン		1																					1	1	1
小計	2	39	2	73	3	54			16		1				2	7					5	9	195	204	
アフリカ (2か国)						1		1															2	2	2
エジプト						1		1															2	2	2
ナイジェリア								1															1	1	1
小計						1		1															1	2	3
中近東 (1か国)						1																	1	1	1
イラン						1																	1	1	1
小計						1																	1	1	1
北米 (1か国)																							2	2	2
アメリカ合衆国																							2	2	2
小計																							2	2	2
ヨーロッパ (5か国)																							4	4	4
ウクライナ																							4	4	4
アゼルバイジャン																							3	3	3
ハンガリー								1															2	2	2
ポーランド																							1	1	2
チェコ																							1	1	1
小計								1					4		2	3						1	3	9	12
合計（19か国1地域）	2	39	2	75	4	55	1	16		1		4		4	12			1			6	13	209	222	
学部合計	41		大学院合計				136				研究生合計		18		交換留学生など合計				27						

学部・研究科等外国人留学生

区分	学部学生		大学院学生				研究生				科目等履修生		特別聴講学生				特別研究学生		計		合計					
	国費	私費	修士課程	博士課程	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	国費	私費		国費	私費	国費	私費	
教育学																							2	11	13	
情報学		2		12			1	4		1					2	5		1					3	25	28	
医学		1		3	2	19		1															2	24	26	
保健学				1	7	3																	4	1	14	15
理工学		2	36	1	53	2	33		11													2	5	135	140	
生体調節研究所																										
合計	2	39	2	75	4	55	1	16		1		4		4	12			1			6	13	209	222		

学生の海外派遣数

(2022年4月～2023年3月派遣)

地域	留学・派遣先 国名	教育学部/ 共同教育学部	教育学研 究科	社会情報学部/ 情報学部	社会情報 学研究所	医学部医 学科	医学系研 究科	医学部保 健学科	保健学研 究科	理工学部	理工学研 究科	特別支援教育 特別専攻科	合計
アジア (6か国 1地域)	タイ											2	2
	インドネシア	2					4						6
	フィリピン							4					4
	韓国			1				4	1				6
	ベトナム									1		1	2
	シンガポール						1						1
オセアニア (1か国)	台湾				1	1					3		5
	オーストラリア									1			1
ヨーロッパ (4か国)	イギリス	1		1		1							3
	フランス											2	2
	チェコ									2		1	3
	スロベニア	6		1									7
北米（1か国）	アメリカ合衆国							1				1	2
オンライン (5か国)	オンライン(インド)	4		3									45
	オンライン(タイ)				1								3
	オンライン(ベトナム)	2			1				3				9
	オンライン(オーストラリア)	3			1		2		1	1	6	1	15
	オンライン(カナダ)	2			1				3				11
総計		20		9	2	20		28	4	36	8	127	

国際交流協定

2023年5月1日現在

国・地域	大学名	協定締結(更新)日	備考
アジア			
中華人民共和国	西安交通大学	2021.4.12	大学間協定
	廈門大学	2020.4.29	〃
	沈阳化工大学	2020.1.29	〃
	大連医科大学	2010.1.4	〃
	大連理工大学	2012.1.3	〃
	大連工業大学	2020.1.29	〃
	中国科学院過程工程研究所	2019.2.27	〃
	重慶交通大学	2009.3.25	〃
	内蒙古大学生命科学学院	2022.6.15	学部間協定
	中国鉱業大学	2009.1.23	〃
	西南交通大学機械工学部	2009.7.1	〃
	河北工業大学	2015.8.22	〃
	揚州大学水力・エネルギー・動力工程学院	2017.5.15	〃
	廈門理工学院光電通信工程学院	2020.8.31	〃
	天津大学	2014.11.7	〃
	湖南大学生物学院	2022.8.18	〃
	中日友好病院	2022.2.8	〃
	首都医科大学附属北京同仁医院	2022.10.12	〃
	江蘇科技大学	2016.10.17	〃
	中国科学院都市環境研究所	2017.3.23	〃
復旦大学	2017.4.10	〃	
浙江工業大学	2017.5.10	〃	
山東大学化学与化工学院	2017.5.23	〃	
北京協和医学院	2018.12.30	〃	
大韓民国	嶺南大学校	2020.2.1	大学間協定
	釜山大学校	2016.6.22	〃
	建国大学校	2019.10.9	〃
	ソウル大学校	2008.10.27	〃
	韓国原子力医学院KIRAMS	2020.4.20	学部間協定
	ソウル科学技術大学校産業大学院	2015.5.1	〃
	慶熙大学校工科大学	2021.1.5	〃
	忠南大学校	2020.8.11	〃
	仁濟大学校	2019.3.28	〃
	大邱大学	2016.3.29	〃
	ソウル国立大学病院	2021.6.11	〃
KAIST 情報技術統合研究所	2018.12.13	〃	
大邱カトリック大学校医学部	2020.3.27	〃	
延世大学校延世がん病院	2020.9.25	〃	
台湾	東海大学	2020.2.12	大学間協定
	国立台北教育大学	2018.2.5	〃
	国立虎尾科技大学	2013.1.21	〃
	義守大学医学部	2014.5.27	学部間協定
	国立勤益科技大学	2015.4.30	〃
	世新大学	2020.12.14	〃
	国立陽明交通大学工学部	2023.2.20	〃
	国立中央大学工学部・理学部	2018.1.8	〃
フィリピン	フィリピン大学マニラ校	2019.1.8	大学間協定
モンゴル	モンゴル国立医科学大学	2021.7.5	〃
インド	ヒンドスタン大学	2018.6.5	学部間協定
	チトカラ大学	2018.6.6	〃
	タタメモリアルセンター	2021.9.9	〃
マレーシア	マラ技術大学	2015.6.5	大学間協定
	マレーシア国立大学	2020.5.28	学部間協定
	パハン大学	2014.9.9	〃
	マレーシアマラッカ技術大学電子情報工学部	2018.9.22	〃
	モナシュ大学マレーシア校	2023.2.14	〃
マレーシア科学大学	2023.2.10	〃	
ベトナム	ハノイ工科大学機械工学部&ツィニングプログラム	2008.1.23	〃
	ハノイ教育大学	2017.2.8	〃
	FPT 大学	2019.8.1	〃
	トエイロイ大学	2022.11.22	〃
インドネシア	バジャジャラン大学	2015.4.20	大学間協定
	インドネシア教育大学	2018.4.18	〃
	バンドン工科大学数理・自然科学部	2018.10.1	学部間協定
	ジャカルタ州立大学	2016.7.13	〃
	スマトラ工科大学	2017.5.12	〃
	スリウィジャヤ大学	2019.12.26	〃
イスラム サルタン アグング大学	2020.11.17	〃	

国・地域	大学名	協定締結(更新)日	備考
シンガポール	南洋理工大学	2015.3.20	大学間協定
バングラデシュ	ダツフォティル国際大学理工学部	2017.2.8	学部間協定
	ダツフォティル国際大学科学情報技術学部	2017.2.8	〃
	クルナ工科大学	2022.12.15	〃
パキスタン	イスラミア・バハールワルブル大学	2022.12.19	学部間協定
	チェンマイ大学	2017.10.30	大学間協定
	泰日工業大学	2017.11.30	〃
タイ	モンクット王工科大学トンプリ校	2023.4.20	〃
	モンクット王ラカバン工科大学	2008.12.12	学部間協定
	ラジャマンガラ工科大学産業工学部	2017.5.12	〃
	マヒドン大学理学部	2017.1.24	〃
	チュラロンコン大学工学部	2012.12.4	〃
	ランシット大学	2018.12.6	〃
	ラジャマンガラ工科大学工学部	2017.5.12	〃
	ラジャマンガラ工科大学天然資源学部	2017.5.12	〃
	ラジャマンガラ工科大学農工学部	2017.5.12	〃
	ラジャマンガラ工科大学理文学部	2017.5.12	〃
	カセサート大学工学部	2022.2.27	〃
ヨーロッパ			
ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学	2010.3.17	学部間協定
スロベニア	リュブリャーナ大学	2008.9.19	大学間協定
ドイツ	ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター	2020.3.27	学部間協定
	ハイデルベルグ大学ハイデルベルグ粒子線治療センター	2018.7.26	〃
フランス	モンペリエ国立高等化学大学院	2017.1.20	学部間協定
	高等科学技術学院(IPSA)	2023.4.24	〃
	ESIEE パリ	2017.4.12	〃
	モンペリエ大学/フランス国立保健医学研究機構/モンペリエがん研究センター/モンペリエがん研究所	2017.4.10	〃
イタリア	フィレンツェ大学	2015.3.27	大学間協定
アゼルバイジャン	バクー国立大学	2019.10.30	〃
ポーランド	ヤギェウォ大学	2012.3.29	学部間協定
チェコ共和国	オストラバ工科大学	2020.10.20	大学間協定
オーストリア	ウィーン医科大学放射線治療教室	2014.4.14	学部間協定
クロアチア	ザグレブ大学人文社会学部	2014.7.3	〃
リトアニア	ヴィータウタス・マグナス大学	2018.10.22	大学間協定
	ヴィリニユス大学	2019.4.3	学部間協定
北米			
アメリカ合衆国	サンディエゴ州立大学	2016.8.22	大学間協定
	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	2013.7.12	〃
	ピュージェット・サウンド大学大学院	2023.4.11	〃
	ワシントン大学(医学部)	2008.6.13	学部間協定
	マサチューセッツ総合病院 Francis H. Burr陽子線治療センター/放射線腫瘍学科	2018.6.28	〃
	d/b/a メイヨクリニック メイヨクリニックロチェスター放射線腫瘍学科	2008.10.23	〃
	ミズーリ州立大学	2020.2.18	〃
	モアヘッド州立大学	2021.4.27	〃
	フォートルイス大学	2018.4.26	〃
	アダムス州立大学	2019.2.18	〃
中南米			
ニカラグア	ニカラグア国立自治大学マナグア校	2017.1.13	大学間協定
コロンビア	サバナ大学	2007.6.25	学部間協定
オセアニア			
オーストラリア	ウーロンゴン大学	2021.7.9	大学間協定
	クイーンズランド大学	2023.2.27	学部間協定
ニュージーランド	オタゴ大学	2017.11.10	学部間協定

共同教育学部附属学校園

2023年5月1日現在

区 分		総定員	現 員						計	
			1年生/ 3歳児	2年生/ 4歳児	3年生/ 5歳児	4年生	5年生	6年生		
共同教育学部	附属幼稚園	144	37	50	45	/	/	/	132	
	附属小学校	630	102	100	100	101	102	96	601	
	附属中学校	420	136	136	134	/	/	/	406	
	附属特別 支援学校	小学部	18	3	3	3	3	3	3	18
		中学部	18	6	5	6	/	/	/	17
		高等部	24	6	6	5	/	/	/	17
計		1,254	290	300	293	104	105	99	1,191	

医学部附属病院診療科及び患者数

診療科	区 分	2022年度患者数（人）	
		入院患者	外来患者
内 科 系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器・肝臓内科、内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、脳神経内科、総合診療科	47,392	118,338
外 科 系	循環器外科、呼吸器外科、消化管外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、形成外科、救急科	67,636	98,400
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科	40,283	127,569
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔・集中治療科、脳神経外科	26,846	29,006
小 児・女 性 系	小児科、小児外科、産科婦人科	23,415	38,858
放 射 線 系	放射線治療科、放射線診断核医学科	7,265	35,724
計		212,837	447,895

※病床数：731床（2023年4月1日現在）

公開講座（2023年度）

Aコース「一般の方」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
オンライン授業で学ぶ手話とろう文化	9日間（13.5時間）	100人
企業・産業分析スキル特論（金融ビジネスの基礎から実際まで）	9日間（22.5時間）	28人
おとなが学ぶプログラミング！	1日間（2.5時間）	20人
社会起業家特論（先端応用情報学特講A・B）	9日間（22.5時間）	26人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
高校生サイエンスインストラクター育成プログラム①②	2日間（12.0時間）	各20人

開放講座（2023年度）

Aコース「一般の方」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
英語の本を読もう	1日間（1.5時間）	20人
国際協力、はじめの一歩！	1日間（3.0時間）	20人
健康保険の「これまで」と「これから」	1日間（2.0時間）	20人
映画「ここに泉あり」（1955）の時代－映像作品と地方政治	1日間（1.5時間）	20人
第30回アレルギー週間事業 アレルギー市民公開講座・相談会	1日間（2.5時間）	50人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
「地域における日本語支援」支援講座	5日間（7.5時間）	20人

オンデマンド講座（2023年度）

講座名	期間及び時間数	募集人数
手話関連講座（オンデマンド）	6月1日（木）～2月29日（木）	人数制限なし

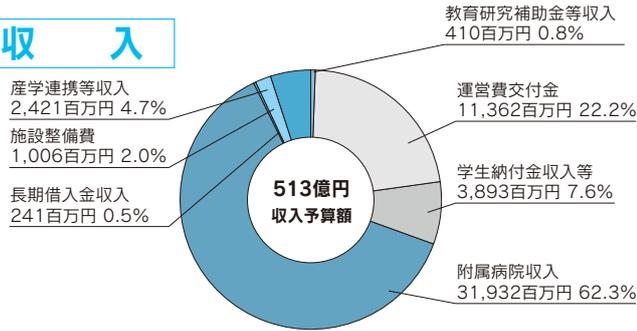
地域貢献事業一覧 (2022年度)

No	事業名	学部等	学科等	担当	事業内容
1	障害のある子どもたちのスポーツ体験プロジェクト ―群馬の自然と人を愛する心を育てる―	共同教育学部	保健体育講座 特別支援教育講座 学務部教務課	木山 慶子 中雄 勇人 田井健太郎 島 孟留 小山 啓太 霜田 浩信 本並 健太	群馬県内のスキー場において、障害のある子どもたちを対象としたスキー・雪遊び教室を開催する。日時は令和4年12月～令和5年2月のうちの5日間（5回）である。指導者および支援者は、群馬大学共同教育学部教員と同学生、さらに地域の方にも指導者としてご参加いただく。 第1回目は、事前説明会として、参加者・スタッフが一堂に会し、顔合わせや教室の概要説明、スキー板の装着などの事前学習を実施する。その後、4回の教室を開催する。また、支援学生の研修として、スキー技能の習得および障がいのある子どもに対する支援方法なども学ぶ機会を設定する。
2	群馬県甲状腺疾患対策推進会議の発展を目指して	医学系研究科 保健学研究科	内分泌代謝内科学 基礎看護学	堀口 和彦 松本 俊一 小澤 厚志	甲状腺疾患は国内で約1000万人が罹患している疾患だが、十分な適切医療が提供されていない。そこで一般市民や患者さん、かかりつけ医、薬剤師などに甲状腺疾患を啓発することで群馬県民に健康増進を図る。これまで群馬県甲状腺疾患対策推進会議を設置し市民公開講座の開催や県医師会に病診連携体制を強化してきた。さらに、令和4年5月に当科の山田らにより設立された一般社団法人日本甲状腺協会の下、これらの事業をさらに推進し、北関東における甲状腺診療についても考慮していく。
3	ポストコロナ時代の群馬県の自然環境を生かした健康増進研修	医学系研究科 医学部附属病院	麻酔神経科学分野 集中治療部	齋藤 繁 高澤 知規	新型コロナウイルス感染症が一定の収束を迎えつつある中、国民の健康増進機運が中高年層を中心に高まっている。多くの山間地域を抱える群馬県では、その自然環境を生かした各種の健康増進活動が可能であり、群馬県や県内各市町村も様々な企画を考案している。本事業では、坂道を歩くことで呼吸機能を改善し、健康長寿につながる体を作ることを啓蒙する。また、医食同源の観点から、運動と栄養管理の両面で健康管理法指導を行う。指導は、呼吸・栄養管理に関して豊富な実績を持つ本学2部署が共同で行い、指導者養成も行う。
4	群馬県軟式野球選手を対象にした成長期スポーツ障害検診 群馬県高校野球投手メディカルチェック	医学系研究科 保健学研究科 医学部附属病院	整形外科 リハビリテーション講座 整形外科	筑田 博隆 田鹿 毅 設楽 仁	本事業は群馬県成長期軟式野球選手（小学生、中学生）高校野球投手を対象とし、成長期スポーツ障害（野球肩・肘、腰椎分離症、オスグッドシュラッター病）の有無並びに、全身のコンディションを調査し、個々の体の状態に応じたトレーニング指導を行う。障害を認めたと（疑われた）選手に対しては医療機関の受診指導（二次検診の施行）を行う。また野球指導者、保護者に対し検診結果をフィードバックし、スポーツ障害の予防について啓発することである。
5	群馬県小児内分泌代謝疾患対策推進会議の発展 (小児内分泌代謝疾患の啓蒙と病診連携の推進による子どもの健康増進)	医学系研究科 医学部附属病院	小児科学 看護部	大津 義晃 滝沢 琢己 大澤 好充 濱嶋 恵美 島田 正晴 須田 峻平 北島 美加 須田まり子 石川 綾子 千明 聡子 齊藤 詩織 石山あかね	昨年度の本事業において群馬県小児内分泌代謝疾患対策推進会議を設立し、①小児内分泌代謝疾患の診療連携会議（オンライン）と、②ぐんま子ども・子育てコロキウム（オンライン市民公開講座）を実施した。 ①は、県内の小児内分泌代謝疾患罹患児のおよそ9割を診療している病院の担当小児医を繋ぎ、感染症蔓延下でも県内で小児内分泌代謝疾患の診療機能が低下しない体制確立にむけた協議を行った。昨年度は医師会との協議ができなかったため、今年度を実施する。 ②は、子どもの心と体の健やかな成長をテーマに、子育てに関与する多職種と連携を図りながら市民公開講座をオンラインで2回実施した。メディアに取り上げられ社会の関心の高さを感じられ、今年度も継続することにした。複数の職種とともに様々な視点から啓蒙活動を行うことも必要と考えられ、今年度は看護部も本事業に参画することになった。積極的な議論を行うため、今年度は会場での開催を目指している。
6	救急救命士向けの病院前周産期救急対応講習の策定および開催	医学系研究科 医学部附属病院	産科婦人科 救急医学 周産母子センター 救命救急センター	岩瀬 明 大嶋 清宏 亀田 高志 井上 貴博 日下田大輔 澤田 悠輔 荒巻 裕斗 河野 慧	本事業は、群馬県内の母体・新生児救命体制の充実に向けて、救急救命士に病院前周産期救急対応・新生児蘇生法を取得してもらうことを目的とする。群馬県内の救急救命士、救急隊員、消防吏員を対象に病院前周産期救急対応コースおよび病院前新生児蘇生法講習会を策定し、実際に開催し、群馬県での周産期医療の充実をさらに目指す。 県内消防本部が11個あり、年に3回程度の講習会を行う。

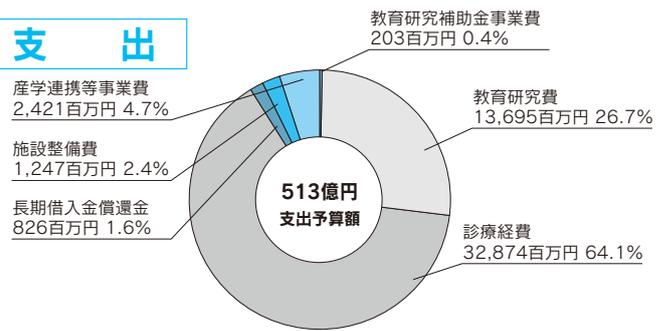
No	事業名	学部等	学科等	担当	事業内容
7	重粒子線治療の施設公開と公開講座	医学部附属病院 群馬県	重粒子線医学センター	大野 達也 群馬県	本事業は、群馬県と重粒子線医学推進機構及び医学部附属病院の連携協力により、一般市民への情報発信を行うことで重粒子線治療の理解、普及を図るものである。普段は一般公開されていない加速器や治療室等の見学、説明で重粒子線治療の理解を深めてもらう。また、あわせて、一般市民向けの公開講座を実施することで、重粒子線治療に関する総合的な理解を深める（新型コロナウイルス感染症対策として別会場で実施。オンデマンド配信を含む）。
8	ゲノム医療に向けた群馬県遺伝子診療体制の構築（群馬県ゲノム医療対策会議の設立と活用）	保健学研究科 医学系研究科 医学部附属病院	看護学専攻基礎看護学 内分泌代謝内科学 産科婦人科学講座 看護学専攻母子看護学 腫瘍センター	小澤 厚志 大崎 綾 山田 正信 日下田大輔 篠崎 博光 塚本 憲史	遺伝子異常を原因とする疾病に対するゲノム医療は一般的な医療になりつつある。県内でゲノム医療に対応できる施設や、専門職人材は限られており、県内ゲノム医療ネットワーク構築は急務だった。令和2年度に本事業が採択され令和4年7月に群馬大学病院内に「群馬県ゲノム医療対策会議」が設置される運びとなった。令和4年度以降の運営として群馬県医務課、群馬県医師会、県立がんセンター、県立小児医療センターと群馬大学から選出されたメンバーによる定期会議の開催と、市民や一般医家を対象としたゲノムリテラシー向上のための講演会、市民公開講座、ホームページの充実化を行う。
9	学生保健サポーターによる地域ボランティア体制の構築	保健学研究科		佐藤 由美 牛久保美津子 齋藤 貴之 石川 麻衣 松本 竹久 山上 徹也 田中 浩二 松井 理恵 堀田かおり 鬼塚 陽子	保健学科全専攻・学年を対象として教育と地域貢献とを一体化した「学生保健サポーター養成」と「群大保健学まちなか交流サロン」の活動を発展させ、地域機関と協働した学生保健サポーターによるボランティア体制を構築する。前年度に構築した前橋市社会福祉協議会との連携関係を基盤に、子どもと保護者、高齢者等を対象に、地域住民のニーズにあわせた学生主体の活動を実施し、自律した学生ボランティア体制の構築を目指す。
10	リカレント講座とプログラミング教室によるデジタルの人材育成・活用事業	理工学府	知能機械創製部門 環境創生部門 分子科学部門	荒木 幹也 中沢 信明 西田 進一 茂木 和弘 岩崎 篤 井上 雅博 ゴンザレスフアン 黒田 真一 河井 貴彦 奥 浩之 山路 稔 平渡 末二	製造業におけるデジタル化やデータ活用が叫ばれて10年以上を経ているが、実際の現場ではデジタル図面無しのものづくりや、得られたデータを解析できない等の状況が続いている。そこでリカレント講座やプログラミング教室を通じて、最先端のデジタルものづくり、製造工程でのデータ取得・解析に関連した授業を行う。さらには共同研究へ発展させることで、理工学府で蓄積した成果の社会実装と人材育成と外部資金の獲得を進めて、本事業の自立化を行う。
11	高校生のための最先端生命科学&重粒子線医学セミナー	生体調節研究所 重粒子線医学推進機構		佐々木伸雄 大野 達也	本事業は生体調節研究所と重粒子線医学研究センターの連携により基礎及び臨床医学の最先端を幅広く体験できるセミナーである。群馬県内のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校などから参加希望者を本学に引き①研究者の講義②実験や研究施設の見学③若手研究者による進路選択の助言等を行う。これら一連の体験学習により、高校生へ生命科学研究の興味を喚起するとともに、生命科学分野を具体的に将来の進路の候補として捉えてもらうための貴重な機会を提供するものである。
12	地域発・地域密着型研究成果報告会	研究・産学連携機構	研究URA室	大澤 康平 平渡 末二 飯塚 朗 松村 幸子	本事業は、地域貢献型大学として群馬大学が地域の社会ニーズを起点に取り組んだ研究成果の地域住民への還元を目的とする。本学では前橋商工会議所、前橋工科大学と産学官金共創を目的としたぐんま未来イノベーション会議及び産学連携協定締結金融機関等意見交換会を開催している。本事業では地域の社会課題研究に携わる研究者から成果を発信してもらい、地域住民、産業界、自治体と相互の意見交換の場を設け、地域のイノベーション創出を推進していくことに特徴がある。

2023年度収入・支出予算額

収入



支出



研究費等獲得・受入状況

2023年5月1日 (千円)

科学研究費助成事業 (2023年度)

研究種目	件数	金額
新学術領域研究 (研究領域提案型)	2	14,700
学術変革領域研究 (A)	4	16,400
基盤研究 (A)	3	17,800
基盤研究 (B)	54	182,000
基盤研究 (C)	253	247,010
挑戦的萌芽研究	10	19,200
若手研究	80	80,000

研究種目	件数	金額
研究活動スタート支援	5	4,700
研究成果公開促進費 (研究成果公开发表)	3	1,270
ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI	5	4,400
特別研究員奨励費	2	7,200
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	2	7,200
計	421	594,680

厚生労働科学研究費補助金等 (2022年度)

研究事業	件数	金額
厚生労働科学特別研究事業	1	1,000
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	1	600
がん対策推進総合研究事業	4	1,600
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	1	300
難治性疾患政策研究事業	13	4,693
免疫・アレルギー疾患政策研究事業	1	6,000

研究事業	件数	金額
障害者政策総合研究事業	1	1,000
エイズ対策政策研究事業	1	10,000
肝炎等克服政策研究事業	1	500
食品の安全確保推進研究事業	1	5,116
集計	25	30,809

補助金等 (2022年度)

補助金区分	件数	金額
大学改革推進等補助金	1	34,740
研究拠点形成費補助金	1	6,570
科学技術人材育成費補助金	1	2,000
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	1	62,335
情報機器整備費補助金	1	1,819
授業料等減免費交付金	1	201,700
学校保健特別対策事業費補助金	1	7,375
教育支援体制整備事業費交付金	1	721
研究開発施設共用等促進費補助金	1	400
物価高に対する経済対策支援金	1	1,000
感染症予防事業費等国庫負担 (補助) 金	1	30,789
医療機関等向け医療提供体制整備交付金	2	2,332
中小企業経営支援等対策費補助金	1	2,137
群馬県感染症指定医療機関運営事業費補助金	1	12,588

補助金区分	件数	金額
県地域医療介護総合確保基金事業費補助金	3	2,301
群馬県救急医療施設運営費等補助金	1	1,374
県地域周産期母子医療センター運営補助金	1	36,412
群馬県災害医療対策事業費補助金	1	67
群馬県COVID-19対策事業費補助金	1	1,177,575
群馬県看護職員等処遇改善事業補助金	1	30,588
県COVID-19疑う患者受入救急・周産期・小児	1	1,224
厚生労働省医療施設運営費等補助金	1	2,741
県コロナワクチン接種体制支援事業協力金	1	2,343
ぐんまデジタルイノベーション加速化補助金	1	1,573
医療研究開発推進事業費補助金	1	19,800
新型コロナウイルス感染症対策助成金	1	1,000
助成事業補助金	1	38,365
計	30	1,681,869

寄附金 (2022年度・基金以外)

区分	件数	金額
寄附金	911	636,546
(内訳)		
荒牧キャンパス	42	38,114
昭和キャンパス	743	474,041
理工キャンパス	126	124,391

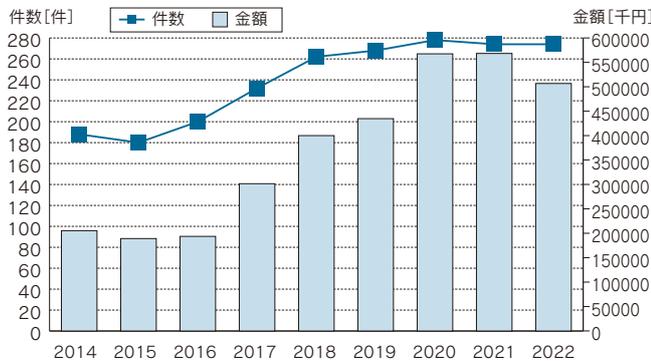
寄附金 (2022年度・基金)

事業名	件数	金額
学生の修学支援に資する事業	105	33,065
大学運営全般に係る事業	55	4,553
重粒子線治療の普及・発展に資する事業	11	12,400
学生等への研究等支援に資する事業	29	9,308
ウクライナ学生・研究者受入支援事業	66	5,538
創基150周年記念事業	20	262
計	286	65,126

共同研究 (2022年度)

区分	件数	金額
共同研究	274	506,822

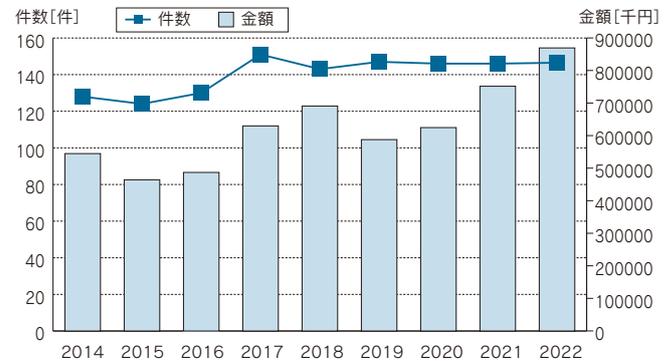
民間等との共同研究受入状況



受託研究 (2022年度)

区分	件数	金額
受託研究	147	869,437

民間等との受託研究受入状況



主な競争的研究費

事業名	名称	主たる担当部署等	採択年度	内容
NEDO ムーンショット型 研究開発事業	ムーンショット型研究開発事業 ／地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現／生分解開始スイッチ機能を有する海洋分解性プラスチックの研究開発	理工学府	2020年度～ 2024年度	本研究開発プロジェクトでは、海洋プラスチックゴミに関わる課題を克服し、ムーンショット目標4「Clean Earth」を実現する「生分解開始スイッチ機能を有する海洋分解性プラスチック」の開発を目指す。
JST ムーンショット型 研究開発事業	ウイルスー人体相互作用ネットワークの理解と制御（季節性および輸入呼吸器疾患原因のウイルスモデル作製とネットワーク解析）	医学系研究科	2020年度～ 2024年度	コロナウイルスは現在拡大しているSARSコロナウイルス-2以外にも、ヒトに感染するコロナウイルスがある。コロナウイルスは一般に呼吸器を標的として、風邪様の症状を引き起こすが、実は詳しい解析がなされていない。私たちは、コロナウイルス以外にもRSウイルスに着目して研究を開始している。つまり、呼吸器に感染するウイルスの予防法や治療法の確立を目的にウイルスの遺伝子操作を用いて増殖機構と病原性の解明を行っている。本事業では異分野の研究者と連携して研究を行い、呼吸器感染症と相互作用ネットワークモデルの構築に挑戦する。
AMED 次世代治療・診断 実現のための創薬 基盤技術開発事業	腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発／課題5：ヒューマン粘膜エコシステムを標的とした腸内細菌創薬プラットフォーム開発研究	生体調節研究所	2021年度～ 2026年度	ヒト腸内環境に存在する微生物（以後、腸内細菌とする）の宿主へ対する影響を明らかにする。我々の腸管内には約1000種類、100兆個におよぶ細菌が常在しているが、その殆どが未培養性細菌であることから、未だにそれらの大部分の機能は不明である。そこで本研究では、腸内細菌と宿主の体内を隔てる粘膜バリアとして最前線で機能する腸管上皮細胞に注目し、その粘膜バリアと腸内細菌の間に存在する相互作用の分子基盤の実体が明らかであることを目的とする。
AMED 脳とこころの研究 推進プログラム	マーモセット脳機能解明に最適化したアデノ随伴ウイルスベクターの開発と供給	医学系研究科	2021年度～ 2023年度	本研究では様々なカプシドを持つ、あるいは種々の細胞種特異的エンハンサー／プロモーターを搭載したアデノ随伴ウイルス（AAV）を作製し、マーモセット大脳皮質におけるそれぞれの感染特性を明らかにする。またマーモセット血液脳関門透過型AAVカプシドバリエーションの探索を行う。得られた情報は革新脳研究者に公開するとともに、革新脳研究者が要望するAAVベクターを提供する。
AMED 国際科学技術共同 研究推進事業	糖尿病治療へ向けたヒト幹細胞由来膵β細胞の品質管理と応用的研究	生体調節研究所	2022年度	ヒト多能性幹細胞（hPSC）由来の膵β細胞による糖尿病治療法開発：iPSCを用いて、Stage6のインスリン産生細胞へ分化誘導し、hPSC由来膵β細胞の機能および細胞生存能についての解析、不均一性の制御機構、ヒト膵島との比較について解析を行い、臨床的に有効な細胞の調整法を検討する。

学部等所在地

符号	学部等の名称	所在地	電話	符号	学部等の名称	所在地	電話	
A	事務局	総務部	(027)220-7005 (総務係)	B	総合情報メディアセンター 理工学図書館	〒376-8516 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1079	
		財務部	(027)220-7044 (総務係)		情報基盤部門桐生分室		(0277)30-1161	
		学務部	(027)220-7125 (総務係)		大学教育・学生支援機構 大学教育センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)	
		研究推進部	(027)220-7512 (総括係)		グローバルイニシアチブセンター			
		施設運営部	(027)220-7088 (総務・契約係)		学生支援センター			
	荒牧地区環境美化室	(027)220-7017	アドミッションセンター					
	共同教育学部 〃附属教育実践センター	(027)220-7204 (総務係)	健康支援総合センター					
	〃附属幼稚園	〒371-0032 前橋市若宮町2-5-3	(027)231-3170	〃 教育改革推進室	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)		
	〃附属小学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)231-2804 (代)	研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部				
	〃附属中学校	〒371-0052 前橋市上沖町612	(027)231-3023 (代)	〃 〃				
	〃附属特別支援学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)232-9758	研究U R A 室				
	大学院教育学研究科	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7204 (総務係)	B	〃 産学連携ワンストップサービスオフィス	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	
	情報学部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7403 (総務係)		〃 高度研究推進・支援部門 高度研究戦略室			
	医学部	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)		〃 機器分析センター			
	大学院医学系研究科 〃附属生物資源センター 〃附属薬剤耐性菌実験施設 〃附属教育研究支援センター				〃 高度人材育成部門 高度人材育成センター			
	大学院保健学研究科 〃附属研究・教育センター 〃附属高度保健学人材開発センター				〃 研究支援人材育成コンソーシアム室			〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
	医学部附属病院				〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	(0277)30-1111 (代)	〃 産学連携・知的財産部門 産学連携・知的財産活用センター	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1
	理工学部 大学院理工学府				桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1		〃 リスクマネジメント室	
	B	大学院理工学府 国際教育研究センター	太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1		(0276)50-2231 (代)	A	〃 次世代モビリティ社会実装研究センター 多職種連携教育研究研修センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1			(0277)30-1111 (代)		〃 重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター		〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
A	生体調節研究所 〃附属生体情報ゲノム リソースセンター 〃附属代謝シグナル 研究展開センター 〃附属拠点研究支援センター	〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)		B	〃 未来先端研究機構	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7633
	総合情報メディアセンター 中央図書館			〒371-8510 前橋市荒牧町4-2		(027)220-7185		
	〃 情報基盤部門			(027)220-7391				
	〃 医学図書館	〒371-8513 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7882	C	共同利用設備統括センター	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	
	〃 情報基盤部門昭和分室	(027)220-8105	ダイバーシティ推進センター		〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)		
	D	伊香保研修所	〒377-0102 渋川市伊香保町 伊香保字香湯14-1	(0279)72-4605	D	北軽井沢研修所	〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大楢2032-242	(027)220-7138

荒牧地区 【所在地：前橋市荒牧町4-2】



- 1 1号館 (学生センター、大学教育・学生支援機構)
- 2 2号館 (教養大講堂)
- 3 3号館 (数理データ科学教育研究センター、
ダイバーシティ推進センター)
- 4 4号館 (共同教育学部)
- 5 5号館 (共同教育学部)
- 6 6号館 (共同教育学部)
- 7 7号館 (共同教育学部、附属教育実践センター、
食健康科学教育研究センター)
- 8 8号館 (共同教育学部、情報学部)
- 9 9号館 (共同教育学部)
- 10 10号館 (情報学部)
- 11 総合情報メディアセンター中央図書館
- 12 職員宿舎
- 13 基幹棟 (中会議室他)
- 14 健康支援総合センター
- 15 荒牧地区環境美化室
- 16 本部管理棟
- 17 守衛所
- 18 第一・第二体育館、武道館
- 19 学生会館「アザレア」
(ミューズホール、グローバルイニシアチブセンター、アトリウムラウンジ)
- 20 キャリアサポート室
- 21 体育管理施設
- 22 課外活動施設 (共用施設棟)
- 23 合宿研修施設
- 24 憩いの広場
- 25 中央モール
- 26 遊歩道
- 27 11号館 (次世代モビリティ社会実装研究センター)

昭和地区 【所在地①：前橋市昭和町3-39-15 (医学部附属病院・生体調節研究所ほか)】
【所在地②：前橋市昭和町3-39-22 (医学部ほか)】



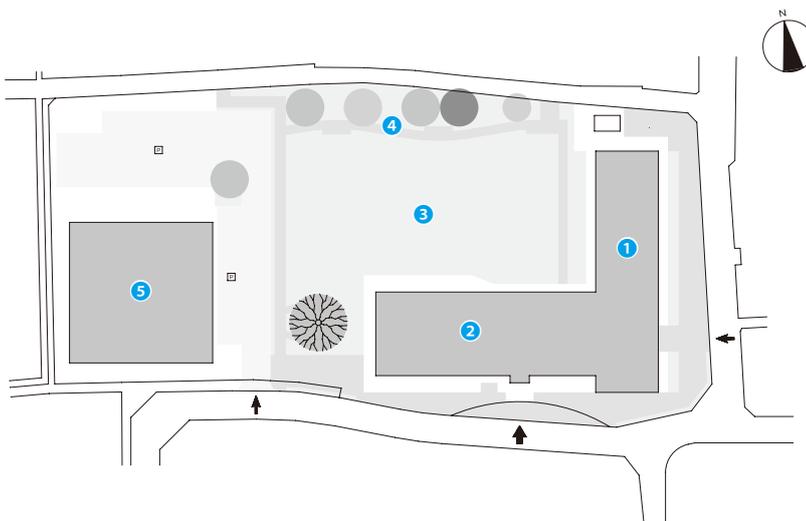
- 1 保健学科西棟・中央棟
- 2 保健学科新棟・南棟
- 3 学生食堂
- 4 中央機械室
- 5 生体調節研究所
- 6 R1研究棟
- 7 特高受電室
- 8 生体情報ゲノムリソースセンター
- 9 生物資源センター (1)
- 10 生物資源センター (2)
- 11 臨床研究棟A (1F:黒梅ホール)
- 12 臨床研究棟B
- 13 基礎医学棟
- 14 医学部講義棟
- 15 刀城会館 (記念会館)
- 16 総合情報メディアセンター医学図書館
- 17 共用施設棟
- 18 臨床講堂
- 19 特別診療棟
- 20 診療棟1
- 21 診療棟2
- 22 診療棟3
- 23 北病棟
- 24 南病棟
- 25 外来診療棟
- 26 体育館・課外活動施設
- 27 プロジェクト棟 (1F:石井ホール)
- 28 中央診療棟
- 29 立体駐車場南
- 30 立体駐車場北
- 31 重粒子線医学センター (重粒子線照射施設)
- 32 保育所 (ゆめのご保育園)
- 33 アメニティモール
- 34 東棟
- 35 非常用発電機室
- 36 しらぎく棟
- 37 多機能診療棟

桐生地区 【所在地：桐生市天神町1-5-1】



- ① A棟（研究・産学連携推進機構）
- ② B棟（研究・産学連携推進機構）
- ③ C棟（研究・産学連携推進機構）
- ④ 同窓記念会館
- ⑤ 車庫
- ⑥ 工学部会館
- ⑦ 環境保全支援センター
- ⑧ 7号館
- ⑨ 実験棟
- ⑩ 1号館
- ⑪ 講義棟
- ⑫ 4号館
- ⑬ 5号館
- ⑭ 総合情報メディアセンター理工学図書館
- ⑮ プロジェクト棟
- ⑯ 電子計算機棟
- ⑰ 6号館
- ⑱ 2号館
- ⑲ 基幹棟
- ⑳ 3号館
- ㉑ 8号館N棟
- ㉒ 8号館S棟
- ㉓ 危険薬品庫
- ㉔ 特別実験棟
- ㉕ RI実験施設 1、2
- ㉖ 原動機棟
- ㉗ 研究推進支援センター
- ㉘ 医理工共用研究棟
- ㉙ 体育館
- ㉚ 合宿所
- ㉛ 課外活動施設
- ㉜ 総合研究棟、機器分析センター

太田地区 【所在地：太田市本町29-1】



- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりイノベーションセンター

荒牧、昭和、若宮、上沖地区



荒牧地区

■鉄道

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8 Km
 JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km

■バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
 ・群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）
 ・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）
 JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）
 ・群大病院・群馬大学荒牧経由総合スポーツセンター行「商工連会館前」下車（所要時間約32分＋徒歩5分）

若宮地区

■鉄道

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ2 Km

■バス

JR前橋駅北口3番乗り場
 ・総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車（所要時間約8分）（日本中央バス）
 JR前橋駅北口6番乗り場
 ・富士見温泉行「附属小前」下車（所要時間約8分）（関越交通バス・日本中央バス）
 ・国立赤城青少年交流の家行「附属小前」下車（所要時間約9分）（関越交通バス）
 ・嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車（所要時間約6分）（永井バス）

昭和地区

■鉄道

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4 Km
 JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1 Km

■バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
 ・全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）
 ・群大病院行・群大病院経由群馬大学荒牧行、群大病院・南橘団地経由群馬大学荒牧行、群大病院経由南橘団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）
 JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）
 ・群馬総社駅「群大病院」下車（所要時間約15分）

上沖地区

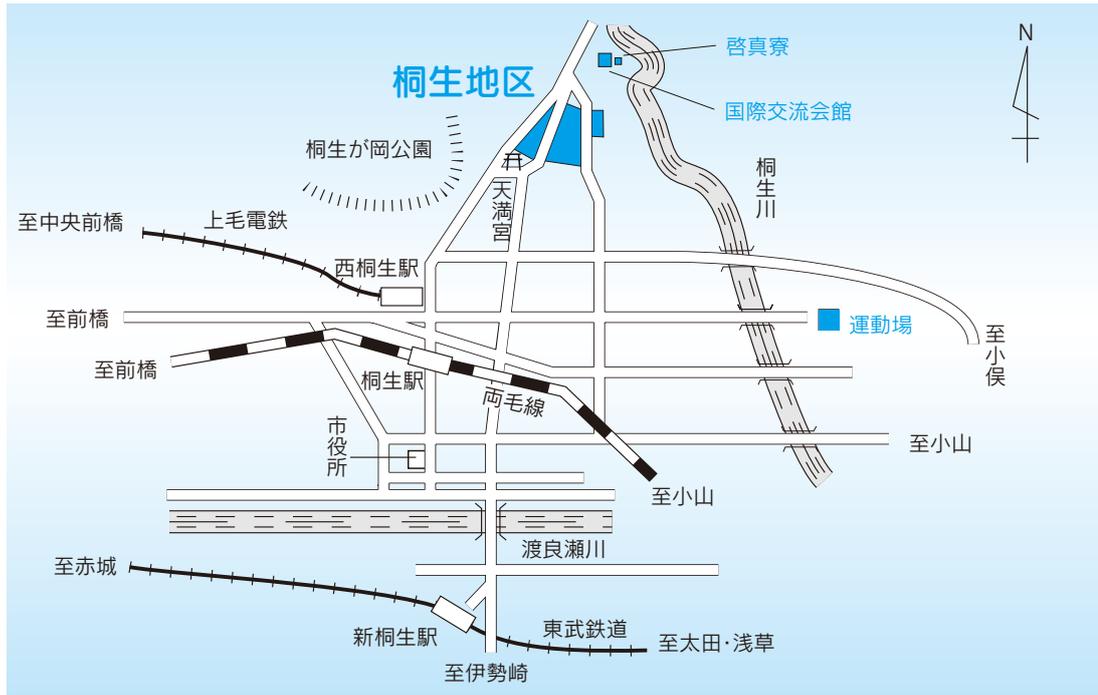
■鉄道

JR 両毛線にて前橋駅下車、北方へ4 Km

■バス

JR前橋駅北口6番乗り場
 ・富士見温泉行「北代田」下車（所要時間約9分＋徒歩15分）（関越交通バス）
 ・嶺公園行「県営住宅前」下車（所要時間約11分＋徒歩10分）（永井バス）

桐生地区



桐生地区

■鉄道

JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km
東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

■バス

JR桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

- ・中央幹線（群大系統）、梅田線「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）
- ・菱線「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間は乗車する曜日・系統によって異なります。（約7分～20分））

東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）

- ・中央幹線（群大系統）「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約20分）

太田地区



太田地区

■東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）

■北関東自動車道 太田桐生IC から約10分

刊行物（パンフレット等）

各パンフレット等はこちらのリンク先からお読みいただけます。



(大学HP「刊行物」)



群馬大学創基150周年記念事業
パンフレット



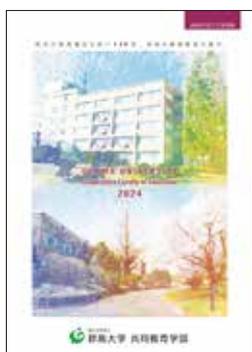
研究活動報 水源 Vol.7



広報誌
「GU'DAY (グッテイ)」



群馬大学案内2024



共同教育学部案内2024



情報学部案内2024



医学部案内2024



理工学部・大学院理工学府案内
2024

学年暦

区分	教養教育	共同教育学部	情報学部	医学部		理工学部 (桐生・太田)
				医学科	保健学科	
学 年 開 始	4月1日					
入 学 式	4月5日					
新入生オリエンテーション	4月4～6日（学部・学科・類別に開催します。）					
前 学 期 授 業 開 始	4月10日			4月10日	4月7日	4月10日
開 学 記 念 日	6月1日					
前 学 期 授 業 終 了	7月28日					8月1日
前 学 期 期 末 試 験	7月31日～8月4日					8月2日～8月10日
夏 季 休 業	8月5日～9月30日					8月11日～9月30日
後 学 期 授 業 開 始	10月2日					
冬 季 休 業	12月27日～1月4日					
後 学 期 授 業 終 了	2月2日					
後 学 期 期 末 試 験	2月5日～2月9日					2月5日～2月14日
学 年 末 休 業	2月10日～3月31日					2月15日～3月31日
学 位 記 授 与 式	3月22日					
学 年 終 了	3月31日					

*理工学部1年生は、「教養教育」による。

「ああ建学の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歡喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
3. とうとうと^{だいち}大地をゆする歌声は
青春の叡智の調べ
^{たま}魂さやか ^{まへ}眉さとく
ああ^{しんおう}深奥の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
4. すこやかに若やぎはづむ歌声は
青春の^{いのち}生命の調べ
^{あけ}暁しるし陽はいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑

キャッチコピー

群を抜け 駆ける 世界を

Break your boundaries, go global from Gunma

群馬大学で思いきり学び、経験し、地域から世界に飛び出して行って欲しいという、学生への想いを込めました。何かを気にすることなく自ら決めた道で目指す学問を追い、どこまでも伸び、どんどん抜きんで良い。疾走する馬のような勢いと真っ直ぐさを持って、地域から世界を駆け回る人材を育てたいというイメージです。



国立大学法人群馬大学徽章

昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク

平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。



認証評価認定マーク 令和5年3月23日認定

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による令和4年度実施の大学機関別認証評価において、「群馬大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している。」と評価されました。



群馬大学公式HP・SNS

群馬大学に関する情報をHP・SNSにて随時発信中!



群馬大学公式HP



Facebook



LINE



Instagram



X (旧Twitter)



YouTube

発行日

2023年10月発行

編集

国立大学法人群馬大学総務部総務課広報係
〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL.027-220-7010、7011 FAX.027-220-7012
E-mail. s-public@jimu.gunma-u.ac.jp
URL:https://www.gunma-u.ac.jp

リサイクル適性[®](A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。